

## English Grammar I

担当教員 山本 直子

配当年次 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

英文読解や英作文に不可欠な英文法の基礎知識を身につける。例文を参考にして文法事項のポイントを確認し、練習問題に取り組む。文法の知識を英語の表現力養成に役立てることを目標にする。

## 【授業の展開計画】

第1週 授業説明

第2週～7週、9週～15週

下記の文法事項について解説し、様々な例文を読む。文法の練習問題に取り組む。

現在形、現在進行形、過去形、過去進行形、現在完了形、受動態、助動詞など

第8週 中間テスト

第16週 期末テスト

## 【履修上の注意事項】

1. 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
2. 遅刻2回で欠席1回の扱いになる。
3. 授業には英和辞典を持ってくること。

## 【評価方法】

中間テスト45%、期末テスト45%、出席・授業参加10%

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献】

## English Grammar I

担当教員 追立 祐嗣

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## English Grammar I

担当教員 宮城 和文

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## English Writing I

担当教員 西原 幹子

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

## 【授業のねらい】

本講では、基本的な文法事項をおさえながら、その知識を応用して、英語による作文の練習をする。

## 【授業の展開計画】

テキストに沿って、毎回一章ずつ進み、月に一度のペースで確認小テストを行う。テキスト内で扱う項目は次の通り。

1. 「～すべきだ」の表現
  2. 「言うまでもなく」などの不定詞の慣用表現
  3. 「思う」のさまざまな表現
  4. 「とても～なので」の表現
  5. 「できるだけ～する」の表現
  6. 関係代名詞の使い方
  7. It is～to～ の使い方
  8. 「～はどうですか」の表現
  9. 分数や倍数の表現
  10. 動名詞の使い方
  11. 付加疑問の表現
  12. 倒置
  13. 比較構文
  14. 比較級と最上級
  15. 不定詞の用法
- その他

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

課題の提出状況と内容、小テスト、学期末テストの結果で評価する。

## 【テキスト】

Let's write and communicate! (金星堂、2000年)

## 【参考文献】

『英文法解説』江川泰一郎著、金子書房

## English Writing I

担当教員 津波 聡

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

**【授業のねらい】**

語彙力の拡大と文法事項の定着を図りながら、ライティングの基礎知識や技能の習得を目指します。

**【授業の展開計画】**

コース前半は指定教科書を使用し基本構文を練習しながら文法力の強化を図ります。後半は、ペアでパラグラフライティングを練習し、最終プロジェクトとして個人でパラグラフを作成します。

**【履修上の注意事項】**

- (1) 座席はグループごとに座る
- (2) 無断欠席、遅刻をしない（遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。1/3以上欠席場合単位は認められません。）
- (3) 辞書持参

**【評価方法】**

授業態度（出席状況、積極性）及び提出物（ワークシート、エッセイ）を総合的に評価します。

**【テキスト】**

Basic College Writing with 5 Sentence Patterns (Cengage Learning)

**【参考文献】**

講義の中で紹介します。

## English Writing I

担当教員 新垣 實

配当年次 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

英語で作文をする。特にPARAGRAPH WRITINGを中心に勉強する。

## 【授業の展開計画】

- 第1週 Paragraphとは
- 第2週 良いParagraph・悪いParagraph
- 第3週 Paragraph Writing 1
- 第4週 Paragraph Writing 2
- 第5週 Paragraph Writing 3
- 第6週 Paragraph Writing 4
- 第7週 Paragraph Writing 5
- 第8週 Paragraph Writing 6
- 第9週 Paragraph Writing 7
- 第10週 Paragraph Writing 8
- 第11週 Paragraph Writing 9
- 第12週 Paragraph Writing 10
- 第13週 Paragraph Writing 11
- 第14週 Paragraph Writing 12
- 第15週 Paragraph Writing 13
- 第16週 まとめ

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

受講態度、宿題、出欠などを総合的に勘案し評価する。

## 【テキスト】

プリント教材などを準備し、参考図書もそのつど紹介します。

## 【参考文献】

## English Reading I

担当教員 松田 節子

配当年次 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

この授業では精読と概要把握のふたつの読み方を身につけることを大きな目標とする。題材は時事英語、比較文化、名スピーチ、沖縄の社会文化など幅広い分野のものを扱う予定である。授業では文法、表現、背景的知識などを詳しく見ながら正確な内容理解に努めるとともに、それぞれの題材について自分なりに考え、英語で意見、疑問、感想などを述べる練習をする。

## 【授業の展開計画】

授業開始時にシラバスを配布する。

## 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) 電子辞書を持ってくること
- (3) シラバスに基づき、必ず予習をして授業に臨むこと（予習には音読を含む）
- (4) 私語、居眠りをしないこと
- (5) 教室では携帯電話の電源を切ること

## 【評価方法】

出席、課題・提出物、授業態度、授業への貢献度、テストの結果など総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業開始時に指示する。

## 【参考文献】

適宜配布する。

## English Reading I

担当教員 津波 聡

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

精読を通して語彙力と読解力の強化を図る。

### 【授業の展開計画】

指定教科書の精読。1時間1チャプターを基本とし、各グループが2チャプターを担当する。

### 【履修上の注意事項】

- (1) 無断欠席、遅刻をしない  
(遅刻2回で欠席1回とみなします。1/3以上欠席の場合単位は認められません。)
- (2) グループごとに座る
- (3) 辞書持参

### 【評価方法】

授業態度（出席率、積極性、発言）、クイズ、提出物を総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業の中で連絡する。

### 【参考文献】



## English Reading I

担当教員 山本 直子

配当年次 1年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

この授業ではプリント教材を使用して様々なテーマについての英文を読み、文章の内容を速く正確につかむ訓練をする。幅広い分野の英文を読んで色々な語彙、熟語、慣用表現を学ぶとともに、英語での質疑応答や英作文によって英語による表現力の向上を目指す。

## 【授業の展開計画】

第1週 授業説明

第2週～7週

様々なテーマの英文を読む。(ディクテーション、英問英答、和訳、英作文、練習問題など)

第8週 中間テスト

第9週～15週

様々なテーマの英文を読む。(ディクテーション、英問英答、和訳、英作文、練習問題など)

第16週 学期末テスト

## 【履修上の注意事項】

1. 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
2. 遅刻2回で欠席1回の扱いになる。
3. 授業には英和辞典を持ってくること。

## 【評価方法】

中間テスト45%、学期末テスト45%、出席・授業参加10%

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献】

## English Reading II

担当教員 松田 節子

配当年次 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

この授業では前期のEnglish Reading Iに引き続き、精読と内容把握のふたつの読み方をさらに磨くことを目標とする。題材は時事英語、比較文化、沖縄の社会文化、国内外で活躍する著名人のインタビューなど、幅広いものを扱う予定である。授業では文法、表現、背景的知識などを詳しく見ながら正確な内容理解に努めるとともに、それぞれの題材について自分なりに考え、英語で意見、疑問、感想などを述べる練習をする。

## 【授業の展開計画】

授業開始時にシラバスを配布する。

## 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) 電子辞書を持ってくること
- (3) シラバスに基づき、必ず予習をして授業に臨むこと（予習には音読を含む）
- (4) 私語、居眠りをしないこと
- (5) 授業中は携帯電話の電源を切ること

## 【評価方法】

出席、宿題、授業態度、授業への貢献度、テストの結果などから総合的に評価する。

## 【テキスト】

授業開始時に指示する。

## 【参考文献】

適宜配布する。

## English Reading II

担当教員 津波 聡

配当年次 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

多読・速読により語彙力、読解力を強化を図る。

## 【授業の展開計画】

毎時間語彙力問題をウォーミングアップ活動として行い、その後各々のレベルや興味に応じて本を選び、個々のペースで読み進める。毎時間、授業の最後にリーディングログを記入し、各自の読書履歴を作成する。

## 【履修上の注意事項】

- (1) 無断欠席、遅刻をしない  
(遅刻2回で欠席1回とみなします。1/3以上欠席の場合単位が認められません。)
- (2) 授業で使用する本には何も書き込まない。
- (3) 読んだ本は授業後に必ず返却する(本を持ち帰らない)

## 【評価方法】

出席状況、クイズ、提出物(リーディングログ)を総合的に評価します。

## 【テキスト】

授業の中で提供する

## 【参考文献】

## English Reading II

担当教員 山本 直子

配当年次 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

この授業ではプリント教材を使用して様々なテーマについての英文を読み、文章の内容を速く正確につかむ訓練をする。幅広い分野の英文を読んで色々な語彙、熟語、慣用表現を学ぶとともに、英語での質疑応答や英作文によって英語による表現力の向上を目指す。

## 【授業の展開計画】

第1週 授業説明

第2週～7週

様々なテーマの英文を読む。（ディクテーション、英問英答、和訳、英作文、練習問題など）

第8週 中間テスト

第9週～15週

様々なテーマの英文を読む。（ディクテーション、英問英答、和訳、英作文、練習問題など）

第16週 学期末テスト

## 【履修上の注意事項】

1. 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
2. 遅刻2回で欠席1回の扱いになる。
3. 授業には英和辞典を持ってくること。

## 【評価方法】

中間テスト45%、学期末テスト45%、出席・授業参加10%

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献】

## 英語情報処理 I

担当教員 真喜志 満

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

本講座は、キーボード練習によるブラインドタッチをマスターすることから始め、最終的には外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する英文書類を作成する能力を身につけることを目的とする。進め方は、実際の書類を教材に演習を行っていく。使用ソフトはMicrosoft Wordが中心である。演習にあたっては、常に10本の指をフルに使ったブラインドタッチの基本を忘れないようにすることが大切である。単に与えられた教材を真似て作るだけでなく、全体のフォーマットや状況を考えながら、習得することが重要である。

### 【授業の展開計画】

1週目	講義内容の説明、導入
2週目～4週目	ブラインドタッチ等の基礎演習
5週目	入力速度測定
6週目	雑誌記事を利用したの入力演習
7週目	段組のある雑誌記事での入力演習
8週目	文書作成：ビジネスレター、英文履歴書
9週目	実地的ビジネスレターの作成
10週目	筆記体からのビジネスレターの作成
11週目	メモ書きを基にした実地的書類作成
12週目	和文英訳をしながらのレター作成
13週目	ワード機能をフルに使った演習
14週目	英文履歴書等の課題の仕上げ・印刷
15週目	期末試験

### 【履修上の注意事項】

やむを得ず欠席する場合は、所定の欠席届を提出のこと。

### 【評価方法】

出席35%、入力速度測定15%、作成文書の提出25%、宿題10%、期末試験10%、その他5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。演習を中心の授業なので、評価の配分は試験より実践のほうが高い。学生には、とにかく毎回出席して、与えられた課題をこなし提出することが望まれる。

### 【テキスト】

使用せず。毎回練習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。

### 【参考文献】

## 英語情報処理 I

担当教員 伊波 清輝

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

本講義は、第一に、来る高度情報化社会で活躍するのに必要なコンピュータ・リテラシーのごくベーシックな部分を身につけさせること、第二には、学生がコンピュータを利用して有意義な学習生活ができるようにその基本技能を習得させることに焦点をします。情報基礎 I では、コンピュータの基礎、Word、Excelを導入し、情報基礎 II は、PowerPointが中心となります。使用されるOSはMicrosoft Windows Xp、ソフトはWord 2007、Excel2007、PowerPoint2007を予定しています。

### 【授業の展開計画】

1. コンピュータの基礎知識
2. Windows入門
3. Wordの予備知識
4. 文書の作成、編集、管理
5. 表、罫線
6. 画像、テキストの挿入
7. 文章操作機能のいろいろ
8. Excel入門
9. Excel入門

### 【履修上の注意事項】

コンピュータ技能の習得は言語の習得に相通じるところがあり、学習の継続性が重要です。したがって、出席が重視されます。コンピュータと相対することは孤独な作業であり、自主的、積極的な学習態度が要求されます。

### 【評価方法】

評価は毎時の課題提出と期末の課題レポートが主な対象となります。

### 【テキスト】

1. 「例題30＋演習問題70でしっかり学ぶWord標準テキストWord2007」 斉藤正生（技術評論社）
2. プリント教材(Excel)

### 【参考文献】

## 英語情報処理 I

担当教員 ダグラス トライスタット

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 英語情報処理Ⅱ

担当教員 真喜志 満

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

本講座の主な目的は、外資系企業など国際的環境の職場で実際に作成する書類を英語で作成する能力を身につける為のコースである。進め方としては、実際の英文書類を教材として、作表などの演習を行っていく。インターネットも活用するが、使用ソフトはMicrosoft Excelが中心である。演習にあたっては、単にワープロ感覚で作表するのではなく、様々なデータ処理機能を活用しながら、書類を作成する能力を身につけることが大切である。

### 【授業の展開計画】

1週目	講義内容の説明、導入
2週目	アドレス帳の作成
3週目	単語帳の作成とインターネットの活用
4週目	スケジュール表の作成
5週目	作表：Company's Report Their Earnings
6週目	作表：Monthly Income for Employees
7~8週目	作成時の複雑な体裁を整える演習
9週目	作表：Nikkei 225 Futures
10週目	作表：Expenditure Analysis
11~12週目	作表：成績表
13~14週目	作表：Import Calculation
15週目	期末試験

### 【履修上の注意事項】

基礎的なキーボード入力ができることを前提としているので、履修する学生は情報基礎Ⅰを修了していることが望ましい。

### 【評価方法】

出席35%、提出物30%、宿題15%、期末試験15%、その他5%の配分で評価する。その他とは、授業への貢献度や態度などを含む。演習を中心の授業なので、評価の配分は試験より実践のほうが高い。学生には、とにかく毎回出席して、与えられた課題をこなし提出することが望まれる。

### 【テキスト】

使用せず。毎回練習用プリントを配布し、説明の後演習を行う。

### 【参考文献】



## 英語情報処理Ⅱ

担当教員 伊波 清輝

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

本講義は、第一に、来る高度情報化社会で活躍するのに必要なコンピュータ・リテラシーのごくベーシックな部分を身につけさせる、第二には、学生がコンピュータを利用して有意義な学習生活ができるように基本技能を習得させることに焦点をします。情報基礎Ⅰでは、コンピュータの基礎、Word、Excelを導入し、情報基礎Ⅱは、PowerPointが中心となります。使用されるOSはMicrosoft Windows Xp、ソフトはWord 2007、Excel2007、PowerPoint2007を予定しています。時間的に余裕があれば、Photoshop Elements の導入を考えています。

### 【授業の展開計画】

1. PowerPointの予備知識
2. スライドの作成  
表紙スライド、本文  
文字の挿入、イラスト、  
写真、動画の挿入
3. 図表、グラフの作成
4. 図形、組織図の作成
5. プレゼンの効果的な工夫  
アニメーションの設定

### 【履修上の注意事項】

コンピュータ技能の習得は言語の習得に相通じるところがあり、学習の継続性が重要です。したがって、出席が重視されます。コンピュータと相対することは孤独な作業であり、自主的、積極的な学習態度が要求されます。

### 【評価方法】

評価は毎時の課題提出と期末の課題レポートが主な対象となります。

### 【テキスト】

- 1 「例題30＋演習問題70でしっかり学ぶPowerPoint標準テキストPworPoint2007」飯田英明（技術評論社）
2. プリント教材(Excel)

### 【参考文献】

## 英語情報処理Ⅱ

担当教員 ダグラス トライスタット

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## Oral Communication I

担当教員 ヒーター シンプソン

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

In this course I aim to encourage students to become more confident speakers of English. In doing so I use a variety of low-stress activities, usually involving pair or group work, and co-operative (and hopefully fun) activities which require students to use the language they know.

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

This is likely to be based on attendance and participation, informal interviews, and homework assignments designed to prepare for or reinforce class activities.

### 【テキスト】

Marathon Mouth Plus. Paul Shimizu & Brent Gaston

### 【参考文献】

## Oral Communication I

担当教員 ーロビンソン サイモン

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

This course is designed to improve students basic listening, speaking and communication skills.

### 【授業の展開計画】

Students will work individually, in pairs and in small groups to complete a variety of listening and speaking tasks taken from individual chapters of the textbook and from other materials. Regular quizzes, tests and oral presentations will be conducted following the completion of tasks.

### 【履修上の注意事項】

Regular attendance is extremely important in this class, and students must bring their textbook with them to class.

### 【評価方法】

Students will be evaluated based on attendance, effort in class, listening tests and oral presentations.

### 【テキスト】

Marathon Mouth Plus, Intercom Press (Available in the campus bookstore)

### 【参考文献】

Students will be expected to download various listening materials from the CALL Lab.

## Oral Communication I

担当教員 ジョナサン ハッチャー

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## Oral Communication I

担当教員 クレイグ K ジェイコブソン

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## Oral Communication I

担当教員 ホール スミキ

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## Oral Communication II

担当教員 李 イニッド

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

This course aims to help students become more confident in speaking and communicating in English. Students will learn the linguistic forms they need for everyday interaction and the tools to discover and deal with typical misunderstandings.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	Culture/Chat about it
3	Society/Chat about it
4	Language/Chat about it
5	Other topics/Chat about it
6	Work/Chat about it
7	Midterm (1)
8	Midterm (2)
9	The City & the Country/Chat about it
10	Environment/Chat about it
11	Quiz/Chat about it
12	Education/Chat about it
13	Other topics/Chat about it
14	Final exam (1)
15	Final exam (2)
16	Chat about it

### 【履修上の注意事項】

Students are encouraged to use English as much as possible.

### 【評価方法】

Attendance & Class Participation (60%). Oral Presentations (40%).

### 【テキスト】

To be announced in class.

### 【参考文献】



## Oral Communication II

担当教員 グレイ クエン ヒデオ

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## Oral Communication II

担当教員 東恩納 ミシェル

配当年次 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

The primary focus of this course is for students to increase their ability to converse and communicate in English. Listening, speaking, pronunciation and vocabulary acquisition will be addressed.

## 【授業の展開計画】

Please note: As this is an oral ENGLISH class your instructor will speak only English during the class period. Please use English as much as possible in class. Please do not chat with your conversation partners in Japanese during the class period. Expect to spend several hours OUTSIDE of class time preparing for your midterm and final exams, and doing listening work.

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

Grading in this class will be based on the following

Attendance and participation: 30% Final oral examination: 30% Listening work: 10%

(Please note: 80% attendance or more is required to receive a grade of "YU" (A) or "RYO" (B).

Anyone not attending at least 66% of classes will not be able to take the final exam and will fail the class.)

## 【テキスト】

The textbook for this course is Natural Speaking by Paul Thompson & Christopher Chase. Intercom Press

## 【参考文献】

## Oral Communication II

担当教員 ジョナサン ハッチャー

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## Oral Communication II

担当教員 クレイグ K ジェイコブソン

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 基礎演習 I

担当教員 漆谷 克秀

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

「読む」「話す」「調べる」「書く」の基礎能力を培う。プリントを用いて生きた文章のポイントを口述し、原稿用紙(400字)による実作練習を繰り返す。思ったようには書けないのが当たり前で、「書く」事には技術が必要です。誤字のない、理解しやすい簡潔な表現を目指します。夏休みに、ゲーテの『ファウスト』を読み、レポートを作成する。

### 【授業の展開計画】

- 1週： 講師と受講生の自己紹介、授業のガイダンス
- 2週： 原稿用紙の使い方、
- 3週： 表現空間－接続詞、文の長さ－「が」
- 4週： 文末表現、全称的判断
- 5週： 比喻、呼応
- 6週： 語句の係り受け、
- 7週： 用語と語感、
- 8週： 同語の反復、
- 9週： 句読点
- 10週： 紛らわしい語－自動詞・他動詞
- 11週： 漢字とかな
- 12週： 簡潔な表現
- 13週： 翻訳調
- 14週： 助詞
- 15週： 前期のまとめ

### 【履修上の注意事項】

原稿用紙(400字)を用意してください。鉛筆書きで、Bか2Bを使ってください。10回ほどの実作練習がありますが、提出期限を守ること。

### 【評価方法】

出席を確認します。10回前後の原稿提出があります。出席と仕事の量で評価します。

### 【テキスト】

プリントを配布します。  
ゲーテ『ファウスト』第一部、第二部、池内紀訳 (集英社文庫)

### 【参考文献】

本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)

## 基礎演習 I

担当教員 新垣 實

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

アカデミックレポートの書き方を中心に学習しながら、レポート作成に必要な文章力の向上を目指します。

### 【授業の展開計画】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 キャリアガイダンス
- 第3週 図書館オリエンテーション
- 第4週 文章トレーニング (1) ことばとは・文章とは・アカデミックレポートとは
- 第5週 文章トレーニング (2) アカデミックレポートの形式 1
- 第6週 文章トレーニング (3) アカデミックレポートの文章 2
- 第7週 文章トレーニング (4) アカデミックレポートの文章 1
- 第8週 文章トレーニング (5) アカデミックレポートの文章 2
- 第9週 文章トレーニング (6) アカデミックレポートの文章 3
- 第10週 課題発表 1
- 第11週 文章トレーニング (7) アカデミックレポートの文章 4
- 第12週 文章トレーニング (8) アカデミックレポートの文章 5
- 第13週 文章トレーニング (9) アカデミックレポートの文章 6
- 第14週 文章トレーニング (10) アカデミックレポートの文章 7
- 第15週 課題発表 2
- 第16週 まとめ

### 【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること
- 5) 宿題の提出期限を厳守すること

### 【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

### 【テキスト】

プリンと教材を準備する

### 【参考文献】

講義の中でそのつど紹介する。

## 基礎演習 I

担当教員 追立 祐嗣

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

「読む」、「話す」、「聞く」、「書く」の四技能の実践的な訓練を通して、大学における学習方法の基礎力を培い、同時に、論理的な思考に根ざした日本語の運用能力を向上させることを目標とする。

### 【授業の展開計画】

前半は、カードの使い方、論の組み立て方などを、ディスカッションや作文を通して練習する。後半は、各回ごとに指定された日本語のテキストについて、指名されたグループがその大意とテーマを発表し、これを土台にして全員が問題点を議論する。発表するグループは、大意、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を事前に作成し、発表の際に全員に配布する。また、授業の後に、そのテーマに関するレポートを書き、提出すること。（レポートの提出については、前期前半も同じ。）授業で指定されたテキストは、全員必ず読んでくること。

### 【履修上の注意事項】

特になし

### 【評価方法】

レポート：60%、発表・発言：40%

### 【テキスト】

プリント教材を用いる。

### 【参考文献】

『知的生産の技術』梅棹忠夫、岩波新書

『日本語の作文技術』本多勝一、朝日文庫

その他、適宜紹介する。

## 基礎演習 I

担当教員 津波 聡

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

レポートの作成・発表、スピーチ、ディベート等の活動を通して日本語による文章力、発表力の向上を目指します。

### 【授業の展開計画】

コース前半は個人スピーチ、ディスカッション、グループ発表、後半はディベート原稿作成、グループ対抗ディベートを行います。

### 【履修上の注意事項】

無断欠席・遅刻をしない（遅刻2回で欠席1回とみなします、1/3以上欠席の場合単位は認められません）

### 【評価方法】

授業態度（出席状況、発言）、ブックリポート、グループレポートを総合的に評価します。

### 【テキスト】

講義の中で適宜配布します。

### 【参考文献】

授業の中で紹介する



## 基礎演習 I

担当教員 松田 節子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

## 【授業のねらい】

この演習と後期の基礎演習Ⅱを通して大学での学業に必要な読解能力と表現能力を培う。前期の演習Ⅰでは、新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んでその内容について全員でディスカッションする。ディスカッションを通して、論点の捕らえ方、要点の纏め方、論理的な意見の述べ方などを練習する。続いて、各自興味のあるテーマを選んで調べ、その内容を口頭で発表する。発表した内容はレポートにまとめ、後日提出する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1回 オリエンテーション
2	2回 テキストの読み合わせと自己紹介の仕方
3	3回 テキストの読み合わせと文章の読み方
4	4回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んだでのディスカッションー1
5	5回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んだでのディスカッションー2
6	6回 新聞記事、雑誌記事、随筆などを読んだでのディスカッションー3
7	7回 個人発表の準儀（レジユメの書き方、発表の仕方、レポートのまとめ方など）
8	8回 個人発表ー1
9	9回 個人発表ー2
10	10回 個人発表ー3
11	11回 個人発表ー4
12	12回 個人発表ー5
13	13回 個人発表ー6
14	14回 個人発表ー7
15	まとめ（授業評価を含む）
16	

## 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、欠席をしないこと
- (2) テキスト、ノート、筆記用具、電子辞書を持ってくること
- (3) 指定された課題を必ず読み、質問あるいは意見をもって授業に臨むこと
- (4) 授業中に私語、居眠りをしないこと
- (5) 教室では携帯電話の電源を切ること

## 【評価方法】

出席率、課題、発表、レポート、およびクラス・ディスカッションへの貢献度を見て総合的に評価する。

## 【テキスト】

選定中

## 【参考文献】

個人の発表テーマに応じて適宜紹介する。

## 基礎演習 I

担当教員 尚 真貴子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 漆谷 克秀

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

夏休みのレポートを基に口頭発表を行う。最初に発表予定を決める。発表者はレジュメを用意して、予定に従って口頭発表をする。『ファウスト』に含まれるヨーロッパのモチーフやテーマ、ゲーテやその時代の文化、芸術などを発表をとして触れる。またそれが、現代を生きる私たちの問題として認識できることを願う。

### 【授業の展開計画】

- 1週： 授業のガイダンス、発表予定の作成、
- 2週： レジュメの作り方
- 3週： 口頭発表(2名)
- 4週： 同上
- 5週： 同上
- 6週： 同上
- 7週： 同上
- 8週： 同上
- 9週： 同上
- 10週： 同上
- 11週： 同上
- 12週： 同上
- 13週： 同上
- 14週： 同上
- 15週： 同上、最終レポートの提出

### 【履修上の注意事項】

『ファウスト』が難解であることは周知の事実です。難解であればこそ、そのなかでいろいろと考え、考えたことを積極的に発言して、授業に参加してください。  
最終レポートは、1月中に提出してください。

### 【評価方法】

出席を確認します。提出されたレポートと授業への参加量で判断します。

### 【テキスト】

ゲーテ『ファウスト』、第一部、第二部、池内紀訳、(集英社文庫)

### 【参考文献】

レポート作成の際に必要な文献は、個々のテーマに即した文献を、図書館などで調べてください。

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 新垣 實

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

基礎演習Ⅰで学習したことを前提に、さらにアカデミックレポートの書き方を中心に学習しながら、レポート作成に必要な文章力の向上を目指すとともに、各自レポート作成を行う。

### 【授業の展開計画】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 キャリアガイダンス
- 第3週 図書館オリエンテーション
- 第4週 文章トレーニング(1)
- 第5週 文章トレーニング(2)
- 第6週 文章トレーニング(3)
- 第7週 文章とトレーニング(4)
- 第8週 文章トレーニング(5)
- 第9週 文章トレーニング(6)
- 第10週 課題発表1
- 第11週 文章トレーニング(7)
- 第12週 文章とトレーニング(8)
- 第13週 文章トレーニング(9)
- 第14週 文章トレーニング(10)
- 第15週 課題発表2
- 第16週 まとめ

### 【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること
- 5) 宿題の提出期限を厳守すること

### 【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

### 【テキスト】

プリント教材を準備します。

### 【参考文献】

授業の中でそのつど紹介します。

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 追立 祐嗣

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

「読む」、「話す」、「聞く」、「書く」の四技能の実践的な訓練を通して、大学における学習方法の基礎力を培い、同時に、論理的な思考に根ざした日本語の運用能力を向上させることを目標とする。

### 【授業の展開計画】

前半は、各回ごとに指定された日本語のテキストについて、指名されたグループがその大意とテーマを発表し、これを土台にして全員が問題点を議論する。発表するグループは、大意、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を事前に作成し、発表の際に全員に配布する。また、授業の後に、そのテーマに関するレポートを書き、提出すること。授業で指定されたテキストは、全員必ず読んでくること。  
後半は、全員がそれぞれのテーマで比較的長いレポート（論文形式）を仕上げることを目指し、アウトラインのたて方、資料の収集、個人発表などを中心として授業を進めていく予定。

### 【履修上の注意事項】

特になし

### 【評価方法】

前半の作文：30%、発表・発言：20%、個人発表10%、自由レポート：40%

### 【テキスト】

プリント教材を用いる。  
ただし、前半は、テキストを使用する予定。

### 【参考文献】

『知の技法』小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会  
その他、適宜紹介する。

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 津波 聡

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

和文の学術論文を読み、内容を要約し、発表する活動を通して、日本語の「読む」「書く」「話す」技能の更なる向上を図ります。また、英語による授業に対応できるよう英語によるコミュニケーション活動も取り入れます。

### 【授業の展開計画】

前半は、日本語によるスピーチ、グループレポート作成及び発表、後半はパワーポイントを使用した英語スピーチを練習します。

### 【履修上の注意事項】

- (1) 無断欠席・遅刻をしない（遅刻2回で欠席1回とみなします、1/3以上欠席の場合単位は認められません）
- (2) 課題は期限内に提出すること

### 【評価方法】

授業態度（出席状況、発言）、スピーチ、グループレポート、ブックリポートを総合的に評価します

### 【テキスト】

講義中に適宜配布します

### 【参考文献】

講義中に連絡します

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 松田 節子

配当年次 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

前期の基礎演習Ⅰに続き、大学での学業に必要な読解能力と表現能力を培う。後期はグループ発表形式を取り、特定のテーマ（例：早期英語教育、バイリンガル教育）について賛否の立場から意見を述べる練習をする。テーマはグループごとに定めることとし、発表するグループはそれぞれの論点を1000字程度にまとめたレジュメと参考文献リスト・資料をゼミのメンバー全員分準備し、配布する。発表後は各自調べた内容をレポートに纏め、提出する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1回 夏休みについての報告
2	2回 テキストの読み合わせ
3	3回 テキストの読み合わせ
4	4回 テキストの読み合わせ
5	5回 意見の述べ方ー1（レジュメおよびレポートの書き方）
6	6回 意見の述べ方ー2（論点を押さえた意見の述べ方）
7	7回 グループ発表ー1
8	8回 グループ発表ー2
9	9回 グループ発表ー3
10	10回 グループ発表ー4
11	11回 グループ発表ー5
12	12回 グループ発表ー6
13	13回 グループ発表ー7
14	14回 グループ発表ー8
15	まとめ（授業評価を含む）
16	

## 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) テキスト、ノート、筆記用具、電子辞書を持ってくること
- (3) グループ発表のテーマについては、発表者以外も必ず調べ、意見をもって授業に臨むこと
- (4) 授業中に私語、居眠りをしないこと
- (5) 教室では携帯電話の電源を切ること

## 【評価方法】

出席率、課題、発表、レポート、および討論への貢献度などを見て総合的に評価する。

## 【テキスト】

選定中

## 【参考文献】

各グループの発表テーマに応じて適宜紹介する。

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 尚 真貴子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】



## 日本語現代文法 I

担当教員 柴崎 礼士郎

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

### 【授業のねらい】

外国語の理解や習得に長けていても、日本語に関して説明に窮する場合も多々ある。本講では日本語の基礎的な文法事項を取り扱いながら、日本人が見落としがちな日本語の特性、または、外国人が間違え易い日本語の特徴を学んでゆく。外国語の視点から日本語を再考する。

### 【授業の展開計画】

- 第1-2週： 国語か？日本語か？
- 第3-4週： 日本語の発想と英語の発想
- 第4-5週： 品詞・語彙
- 第6-7週： 語順
- 第8-9週： 助詞の機能
- 第10/11週： 主語と省略
- 第12/13週： 待遇表現、ポライトネス
- 第14週： 指示表現
- 第15週： その他
- 第16週： 試験

### 【履修上の注意事項】

日本語教員免許取得を目指す学生には必修科目であり一年次からの履修となる。履修手続きに漏れないように確認すること。尚、受講生の理解度に合わせて授業の展開計画を柔軟に変更する場合もある。

### 【評価方法】

- ①出席率 ②課題 ③試験 ④授業態度

### 【テキスト】

年度末まで熟考するため現時点で未定。

### 【参考文献】

- 荒川洋平 2009 『日本語という外国語』 東京：講談社現代新書 ¥740 (税別).  
初山洋介 2009 『日本語で学ぶ入門からの認知言語学』 東京：研究社 ¥1,470 (税別)

## 日本語現代文法Ⅱ

担当教員 柴崎 礼士郎

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

前期で学習した事項を踏まえ、文法事項を更に理解してゆく。後期は、受講者の理解度を確認するために、グループ作業を行う予定である。項目ごとに担当グループを決めてクラス発表を行う。授業では、発表の補足あるいは更に理解を深めるための指導を行う。

### 【授業の展開計画】

第1-2週： 他動性  
第3-4週： ボイス  
第4-5週： 人称  
第6-7週： テンス・アスペクト  
第8-9週： モダリティ・活用  
第10/11週： 単文・複文  
第12/13週： 接続表現  
第14週： その他  
第15週： 総復習  
第16週： 試験

### 【履修上の注意事項】

日本語を含めた語学教員にはプレゼンテーション能力が要求されます。下調べをしっかりと行い、発表時にはハンドアウトも用意すること。尚、受講生の理解度に合わせて授業の展開計画を柔軟に変更する場合もある。

### 【評価方法】

①出席率 ②課題 ③試験 ④授業態度 ⑤発表内容

### 【テキスト】

年度末まで熟考するため現時点で未定。

### 【参考文献】

荒川洋平 2007『続・もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』スリーエーネットワーク ¥1,260.  
荒川洋平・森山新 2009『日本語教師のための応用認知言語学—わかる!!』凡人社 ¥1,500 (税別)

## 日本語表現法演習 I

担当教員 元山 由美子

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。

前期は、周りや自分の使っている日本語に意識を向けます。これまで気がつかなかった身近な言葉のおもしろさを発見するとともに、客観的に見る力を養います。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加すること。

### 【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

ハンドアウトを使用する。

### 【参考文献】

適宜指示する。

## 日本語表現法演習 I

担当教員 一ケリ 綾子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

### 【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。

前期は、周りや自分の使っている日本語に意識を向けます。これまで気がつかなかった身近な言葉のおもしろさを発見するとともに、客観的に見る力を養います。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加すること。

### 【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから、総合的に評価する。

### 【テキスト】

ハンドアウトを使用する。

### 【参考文献】

適宜指示する。

## 日本語表現法演習Ⅱ

担当教員 元山 由美子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

### 【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。後期は、書く、調べる、発表するなどのアカデミック・スキルのトレーニングをします。具体的には、「日本語表現法演習Ⅰ」を踏まえ、普段の生活の中で気になっている日本語についてグループごとに実態調査をし、発表します。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加すること。

### 【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

ハンドアウトを使用する。

### 【参考文献】

適宜指示する。

## 日本語表現法演習Ⅱ

担当教員 一ケリ 綾子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

### 【授業のねらい】

ことばはコミュニケーションの重要な道具です。母語運用能力や表現センスは、外国語を習得するための土台となります。そのためには、母語を正確に、効果的に使用することが必要です。この授業は、日本語を意識することと日本語表現能力の向上を目的とします。後期は、書く、調べる、発表するなどのアカデミック・スキルのトレーニングをします。具体的には、「日本語表現法演習Ⅰ」を踏まえ、普段の生活の中で気になっている日本語についてグループごとに実態調査をし、発表します。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加すること。

### 【評価方法】

出席率、授業態度、発表、宿題の提出などから、総合的に評価する。

### 【テキスト】

ハンドアウトを使用する。

### 【参考文献】

適宜指示する。

## アメリカの社会と文化

担当教員 クレイグ K ジェイコブソン

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## アメリカ文学史

担当教員 追立 祐嗣

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

アメリカ文学の流れを概観し、主要作家の作品を鑑賞する。植民地時代・独立戦争時の歴史背景から始め、19世紀、特にアメリカン・ルネサンス期の作家・作品の講読を通して、「アメリカの良質な知的財産」に触れ、その理解を図る。

### 【授業の展開計画】

授業では、テキストの中の作家についての説明文と作品（詩や散文など）を英語の原文で読み進む。また、ビデオ鑑賞（長編小説など）を適宜取り入れることもある。個人指名による質問形式をとるので、必ず予習をしておくこと。授業での質問に対して、ある回数以上答えられない者には、単位を与えない。

### 【履修上の注意事項】

特になし

### 【評価方法】

中間・期末試験：各45%、授業中の指名に対する応答や発言：10%

### 【テキスト】

プリント教材を使用する。

### 【参考文献】

横沢四郎他『概説アメリカ文学史』金星堂、1981年  
その他、適宜紹介する。



## イギリスの社会と文化

担当教員 ヒーター シンプソン

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

This class is intended to give students an opportunity to explore contemporary issues in British culture and society and reflect upon their relevance to contemporary societies elsewhere, particularly Okinawa and Japan.

### 【授業の展開計画】

In collaboration with the teacher, students will be expected to produce a bilingual group project and a final individual report (in English) focusing on an area of their choice.

A number of themes will be proposed, but these are highly negotiable.

### 【履修上の注意事項】

\* For scheduling reasons, I would like to advise students who are taking this class not to register for 英語圏社会文化特殊講義.

\* Communication of ideas will take precedence over medium of communication.

### 【評価方法】

Assessment will be based on the following:

\* assignments relating to course content

\* attendance and participation

### 【テキスト】

No textbook is prescribed for this course.

### 【参考文献】

# イギリス文学史

担当教員 山本 直子

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

## 【授業のねらい】

この講座は、イギリス文学史上の重要な作家や作品を概観しながら、文学作品の背景にあるイギリスの社会や歴史についての知識を深め、文学史の流れを掴むことを目的とする。

## 【授業の展開計画】

第1週 授業説明

第2週～7週

\*下記の項目に沿って、イギリス文学史を学ぶ。

\*文学作品の読解や映画鑑賞を取り入れ、重要な作家や作品について詳しく学ぶ。

1. イギリス文学の黎明期
2. チョーサーの時代—14・15世紀の文学—
3. シェイクスピアの時代—16世紀の文学—
4. ミルトンの時代—17世紀の文学—
5. ドライデンとポウプの時代—王政復古～18世紀前半の文学—

第8週 中間テスト

第9週～15週

6. ジョンソンの時代—18世紀後半の文学—
7. ワーズワースの時代—19世紀初期の文学—
8. テニソンの時代—19世紀中期の文学—
9. ハーディの時代—19世紀後期～20世紀初期の文学—
10. ジョイスの時代—現代の文学—

第16週 期末テスト

## 【履修上の注意事項】

- ①欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
- ②遅刻2回で欠席1回の扱いになる。
- ③授業に英和辞典を持って来ること。

## 【評価方法】

出席・授業参加10%、中間テスト45%、期末テスト45%、

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献】

参考文献は授業中に紹介する。

## English Grammar II

担当教員 西原 幹子

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

**【授業のねらい】**

本講では、英文法 I で習得した知識をさらに実践的に学び、定着させることを目的とする。授業では、英文法に関する練習問題を解く作業が中心となる。

**【授業の展開計画】**

プリント教材を用い、毎回一項目ずつ進む。月一回のペースで確認小テストを行う。適宜、長文読解のためのプリントを用い、複雑な英文を読む訓練をする。

**【履修上の注意事項】**

意欲的な参加が求められる。

**【評価方法】**

授業への貢献度と、小テスト、学期末試験の結果で評価する。

**【テキスト】**

English Grammar in Use (Cambridge University Press) をもとに、プリント教材を配布する。

**【参考文献】**

『英文法解説』江川泰一郎著、金子書房

## English Grammar II

担当教員 仲里 和花

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

目的：既習の基本的な文法事項を復習・再確認させ、練習問題等を通して、コミュニケーションの活用につなげる。

## 【授業の展開計画】

1. テキストは44unitで構成されている。各Unitを各学生に割り当て、割り当てられたunitの文法事項について各学生はプレゼンテーションを行う。テキストをそのまま説明してもよいし、その他の参考書を使って説明してもよい。
2. 授業では、文法の練習問題Practiceを解答する。各学生は、自宅で前もって、Practiceを解いてくること。
3. 講師が作成する練習問題を各自、解いて、全員で解答する。

## 【履修上の注意事項】

1. 授業には時間通りに出席すること。20分以上、遅刻した場合は欠席とみなす。授業日数の3分の1（約10回）以上、欠席した場合は、不可とみなす。
2. 英日・日英辞書を持参すること。
3. 携帯電話は、教室内ではスイッチを切っておくこと。机の上にも置かない。
4. 授業中、喫煙や携帯電話で話すために席を離れることを禁ず。

## 【評価方法】

授業態度	20%	優	80点以上
練習問題	15%	良	70点以上80点未満
プレゼンテーション	15%	可	60点以上70点未満
中間・期末試験	50%	不可	60点未満
	100%		

## 【テキスト】

Grammar Spectrum 3 by Norman Coe [Oxford University Press]

## 【参考文献】

## English Grammar II

担当教員 追立 祐嗣

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## English Writing II

担当教員 ピーター シンプソン

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

The aim of this course is to direct students' attention towards the possibility of using English as a vehicle for expressing their own concerns, whether personal, local or global, and to explore the power of writing as a means of communication.

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

English is a global language which is not owned by any single culture or country. As a result of this, I aim to concentrate on successful communication rather than failed grammar.

### 【評価方法】

Assessment will be based on attendance, participation, and the body of written work students produce on the course.

### 【テキスト】

No textbook is required for this course.

### 【参考文献】

## English Writing II

担当教員 一ツ化ツツ レイフールト

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## English Writing II

担当教員 ーグレイ クウェン ヒデオ

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】



## 英語音声学

担当教員 李 イニッド

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

## 【授業のねらい】

This course combines theory and practice in articulatory phonetics with a focus on the basic concepts of English speech sounds.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	The Vocal Organs; Sound Classes
3	Consonants: Places of Articulation
4	Consonants: Manners of Articulation
5	Vowels: Articulation & Classification
6	The Transcription of English Vowels & Consonants
7	Consonant & Vowel Charts; Midterm Exam
8	The Syllable
9	Accent
10	Rhythm
11	Coarticulation & Other Phonological Processes
12	Intonation (1)
13	Intonation (2)
14	World Englishes
15	Final Exam
16	Consonant & Vowel Charts

## 【履修上の注意事項】

No particular requirements.

## 【評価方法】

Attendance & Class Participation (50%). Mid-term & Final Exams (50%).

## 【テキスト】

To be announced in class.

## 【参考文献】

## 英語学概論

担当教員 新垣 實

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

英語学概論とは、アメリカ人やイギリス人が乳幼児のころから習い覚える英語の言語習慣や規則の体系を音声、語彙、文、意味などの角度から総論的に勉強する学問分野です。英語を単なるコミュニケーションツールとしてではなく、そのしくみを科学的に分析し記述する方法論を学び、英語に対する言語学的理解を深めることを目指します。

### 【授業の展開計画】

第1週 言語と言語学  
第2週 英語と英語学  
第3週～第4週 音韻論  
第5週～第7週 形態論  
第8週 中間試験  
第9週～第11週 統語論  
第12週 第13週 意味論  
第14週 語用論  
第15週 英語の歴史  
第16週 期末試験

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

受講態度、宿題、中間・期末、出欠などを総合的に勘案し評価する。

### 【テキスト】

プリント教材などを準備

### 【参考文献】

参考図書もそのつど紹介します。

## 英語教育学

担当教員 野口 正樹

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

本講義は、3年次履修の英語科教育法Ⅰの introduction になります（従って、英教法履修予定者は“原則”受講することが望ましいです）。英語科教育の現状を overview し、問題点を把握します。そして、今後目指すべき英語科教育の方向性を明らかにします。講義の前半45分は指定 group が略式 presentation を行います。「わかる」段階に留まらず、「使える・説明できる」段階を模索します。後半45分は、授業者が例示や解説を行い、受講者の疑問に答えます。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

### 【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation（group 毎）
- ③ 個人・相互評価
- ④ 質疑応答
- ⑤ 課題
- ⑥ 受講姿勢

### 【テキスト】

講義内で連絡します。

### 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

## 英語情報処理Ⅲ

担当教員 ダグラス トライタット

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 英語情報処理Ⅲ

担当教員 島村 岳

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 英語情報処理Ⅳ

担当教員 ダグラス トライカット

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 英語情報処理Ⅳ

担当教員 島村 岳

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 英米小説概論

担当教員 山本 直子

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

この講座では、19世紀、20世紀の英語作家によって書かれた小説の読解を通して、それぞれの作家の思想について学ぶとともに、英語圏の文学、文化、社会、歴史についての幅広い基礎知識を身につけることを目標にする。また、物語を読む楽しさを味わいながら、作家の表現力豊かな文章に触れ、自らの英語力向上に役立ててもらいたい。

### 【授業の展開計画】

第1週 授業説明

下記の作家の作品を取り上げる。

受講者に作品のあらすじやテーマについて順番に発表してもらおう。

作家、作品の書かれた時代、社会背景について理解を深めながら作品の抜粋を読み解釈する。

文学作品を理解するための手助けとして、随時、映画鑑賞も授業に取り入れる予定。

第2週～7週

テーマ「19世紀のアメリカ小説における女性の表象」

Louisa May Alcott

Charlotte Perkins Gilman

第8週 中間テスト

第9週～12週

テーマ「George Orwellの見た20世紀の社会主義と帝国主義」

George Orwell

第13週～15週

テーマ「フェミニズム批評で読む\_Jane Eyre\_—19世紀イギリスの女家庭教師」

Charlotte Bronte

第16週 学期末テスト

### 【履修上の注意事項】

1. 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
2. 遅刻2回で欠席1回の扱いになる。
3. 授業に英和辞典を持って来ること。

### 【評価方法】

中間テスト40%、学期末テスト40%、発表10%、出席・授業参加10%

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献】

授業中に紹介する。



## 英米文学概論

担当教員 追立 祐嗣

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

英語で書かれた文学作品の鑑賞を通して、英米の文学、文化、社会、歴史に関する基礎的な知識を身につけるとともに、実際の作品に触れることにより、「文学とは何か」を考えることを目標とする。今年度は、小説やエッセイなどの講読を通して、「アメリカ黒人文学」という特殊なテーマを取り上げ、考察する。また、現代沖縄文学の作品も適宜取り入れ、アメリカ黒人文学との共通点を探ることにより、文学の普遍性を考察する。

### 【授業の展開計画】

毎回、作品のあらすじやテーマなどを中心に、グループ発表とディスカッションにより授業を進める。予め指名されたグループは、作品のあらすじ、テーマ、議論すべき問題点などをまとめた「発表報告書」を作成し、全員に配布すること。グループの発表を基にして、全員が作品について議論を行う。作品は、全員必ず読んでおくこと。

### 【履修上の注意事項】

特になし。

### 【評価方法】

中間試験：33%、期末試験：33%、グループ発表・発言33%

### 【テキスト】

主にプリント教材を用いる。

### 【参考文献】

『アメリカ黒人の歴史』本田創造（岩波新書）、その他、適宜紹介する。

## Oral Communication III

担当教員 グレイ クエン ヒデオ

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## Oral Communication III

担当教員 ジョーン ターバート

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

## 【授業のねらい】

This class is designed to help students improve their ability to communicate using English. The class will include a variety of pair / group / class activities to develop communication skills.

## 【授業の展開計画】

Oral Communication III will cover the text, and additional materials will also be used to expand on and reinforce what is covered in the text.

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

The final grade will be based on quizzes, homework, attendance, participation, pair / group projects and presentations to be made in class. Students will be expected to use English as much as possible in class.

## 【テキスト】

The textbook has not yet been decided at this time. In addition to the textbook, supplementary materials will also be used in class.

## 【参考文献】

## Oral Communication III

担当教員 一ツ化ツツ レイフールト

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## Oral Communication III

担当教員 ダグラス トライカット

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## Oral Communication III

担当教員 -東恩納 ミシェル

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 基礎演習Ⅲ

担当教員 ヒーター シンプソン

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

The aim of this course is to build on students' English study skills so as to conduct academic discussions, and produce academic texts and presentations in English.

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

For practical reasons classes will be conducted predominantly in English, though I do not intend to impose an “English only” policy.

### 【評価方法】

Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation

### 【テキスト】

Developing Academic Writing Skills. Robyn Najar & Lesley Riley.

### 【参考文献】

## 基礎演習Ⅲ

担当教員 ポール スミンキー

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

The seminar will be conducted as a workshop: students will be provided a large selection of reading materials from which to choose, be given ample time to read during class, and be asked to share their reactions to various books. Through extensive reading, students should develop greater independence and more confidence in their English reading abilities.

### 【授業の展開計画】

As explained above, the seminar will be conducted in a workshop format. This means there will be few if any formal lectures. Instead, we will have reading time, group and pair discussions, and occasional large group discussions. In addition, students will be asked to present a book to the class, make a poster in a group, and perform one of the short plays that they read.

### 【履修上の注意事項】

Students should be prepared to do an extensive amount of reading, especially in English. Since the focus is on extensive reading, students are strongly encouraged to choose books and materials that they can easily comprehend. Books that seem too easy are far preferable to books that seem too difficult.

### 【評価方法】

Students will be evaluated based on class performance, journals, and how much reading they do. In general, students must read more than 35 pages / week to receive a passing grade (可); more than 45 pages / week to receive a 良; and more than 55 pages / week to receive a 優. Three latenesses will count as one absence. Students should read 15 extra pages for each absence.

### 【テキスト】

Students will not be required to buy any textbooks but will be allowed to borrow graded readers and other books from the instructor.

### 【参考文献】

Students should bring a B5 notebook and an electronic dictionary to every class.



## 基礎演習Ⅲ

担当教員 柴崎 礼士郎

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

本講では、レポートおよび論文の書き方の基礎的な部分を学習する。文章力を養う学習法は多種多様に存在するが、与えられた時間は週一回のみである。限られた時間内での効果的な作業は必至であるため、以下の点を中心に授業の展開をはかる。目標と方法の各数字は対応する。

目標： ①即断力 ②分析力 ③要約力 ④文章力

方法： ①即席スピーチ ②模写トレーニング ③つまみ読み ④文章構成トレーニング

### 【授業の展開計画】

以下、おおよその予定を提示しておく。詳細は初回授業で配布予定のプリントを参照のこと。

第1-4週： 即席スピーチ (extemporaneous speech) を集中的に練習

第5-6週： 模写トレーニング

第7-9週： つまみ読み、書評の練習

第10-11週： 無声映画の文章化

第12-13週： 絵の分析/文章化

第14-16週： 広告文の分析 (仮)

### 【履修上の注意事項】

即席スピーチは基本的に毎回行います。小課題もほぼ毎回あります。基礎演習I・IIの履修済みが前提。それ以外は特になし。

### 【評価方法】

①出席率 ②クラスでの作業 ③質疑応答など授業への貢献度 ④学期末レポート

### 【テキスト】

選定中につきTBA。

### 【参考文献】

三森ゆりか 2003 『論理的に考える力を引き出す』白水社 ¥1,575.

三森ゆりか 2006 『外国語で発想するための日本語レッスン』白水社 ¥1,575.

## 基礎演習Ⅲ

担当教員 李 イニッド

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

The aim of this course is to provide guidelines, strategies and practice in writing term papers and summaries. Students will learn how to prepare for a term paper through a series of individual and group activities.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	Prewriting: Topics
3	Prewriting: Sources
4	Library workshop (1)
5	Prewriting: Taking notes
6	Library workshop (2)
7	Organizing your paper: Thesis statement
8	Organizing your paper: Outline
9	Writing the first draft: Title & style
10	INTRODUCTION
11	BODY
12	CONCLUSION
13	Avoiding plagiarism
14	Evaluating and rewriting
15	Final draft
16	

## 【履修上の注意事項】

No particular requirements.

## 【評価方法】

Attendance & Class Participation (40%). Homework (20%). Term Paper (40%).

## 【テキスト】

To be announced in class.

## 【参考文献】

## 基礎演習Ⅲ

担当教員 山本 直子

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

エッセイの書き方とプレゼンテーションの基礎を学習する。英語のライティングによって、パラグラフの成り立ちやエッセイの構成を学び、エッセイを書く練習をする。また、スピーチを行いプレゼンテーションの訓練を行う。

### 【授業の展開計画】

第1週 授業説明

第2週～15週

下記の項目にそって英文ライティングの基礎を学び、エッセイを書く練習をする。また、授業中にスピーチを行う。

1. The Structure of a Paragraph
2. The Structure of an Essay
3. Introductions and Conclusions
4. Opinion Paragraphs
5. Comparison / Contrast Paragraphs
6. Problem / Solution Paragraphs

第16週 学期末テスト

### 【履修上の注意事項】

1. 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
2. 遅刻2回で欠席1回の扱いになる。
3. 授業には英和辞典、和英辞典を持ってくること。

### 【評価方法】

学期末テスト50%、提出課題20%、発表20%、出席・授業参加10%

### 【テキスト】

\_Success with College Writing\_ (Macmillan Languagehouse)

### 【参考文献】

授業中に紹介する。

## 基礎演習Ⅲ

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 基礎演習Ⅳ

担当教員 ヒーター シンプソン

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

The aim of this course is to build on students' English study skills so as to conduct academic discussions, and produce academic texts and presentations in English.

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

For practical reasons classes will be conducted predominantly in English, though I do not intend to impose an "English only" policy.

### 【評価方法】

Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation.

### 【テキスト】

Developing Academic Writing Skills. Robyn Najar & Lesley Riley.

### 【参考文献】

## 基礎演習Ⅳ

担当教員 ポール スミンキー

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

Although students will continue to read books from the Extensive Reading Library, the focus of this semester will be the writing of a five-page academic paper on one of the books from the library. Students will be guided through the entire process of writing their papers.

## 【授業の展開計画】

Although there will be some formal lectures, most of the class will be conducted in a workshop format. Students will work in small groups and in pairs as they work on their papers.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to the course, choice of topics
2	Lecture: Writing an Academic Paper
3	Group discussion on books, writing a thesis and outline
4	Preliminary outlines due; Lecture: Writing an Effective Introduction
5	Lecture: Preparing the Works Cited page / Group presentations
6	Works Cited page due / Reading notebook due #1 / Group presentations
7	Introductions due / critique by instructor
8	Group discussion and work on papers
9	Pair check and revision
10	Papers due before the break
11	Individual conferences, revision of papers
12	Individual conferences, revision of papers
13	Oral presentation of papers
14	Oral presentation of papers/ Reading notebooks due #2
15	Final revisions due / evaluations / discussion of course
16	

## 【履修上の注意事項】

Students should be prepared to do an extensive amount of reading and writing, especially in English. Students are strongly encouraged to choose books and materials that they can easily comprehend. Books that seem too easy are far preferable to books that seem too difficult.

## 【評価方法】

Students will be evaluated based on class performance, a five-page academic paper, and how much reading they do. Students must attend at least 70% of all classes to receive a passing grade (可); more than 80% to receive a 良; and more than 90% to receive a 優. Three latenesses will be counted as one absence; however, a lateness of more than twenty minutes will count as an absence.

## 【テキスト】

Students will not be required to buy any textbooks, but will be allowed to borrow graded readers from the instructor.

## 【参考文献】

Students should bring an electronic dictionary and a B5 notebook to every class.

## 基礎演習Ⅳ

担当教員 柴崎 礼士郎

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

英語による簡単な文章構成トレーニングが中心である。英語が第一言語であれ第二言語であれ、基礎演習Ⅲとは異なる言語での発想の展開を図るため、目的地は同じでも道順が異なる。よって、基本的にはもう一度スタート地点に戻っての再出発という感は否めない。ややきついかもしれないが、最低限の英語能力の体得は、本学科の学生には必須であると判断する。

### 【授業の展開計画】

詳細はTBA。前半はプレゼンテーション中心、後半は（何らかの形式の）英語による発表を模索している。小課題はほぼ毎回あります。

### 【履修上の注意事項】

なし。尚、受講生の興味関心を尊重し、授業の展開計画を柔軟に変更する場合もある。この点は基礎演習Ⅲも同様である。

### 【評価方法】

①出席率 ②クラスでの作業 ③質疑応答など授業への貢献度 ④学期末レポート

### 【テキスト】

現在選定中。TBA.

### 【参考文献】

大串亜由美 2008『研修女王の最強3分スピーチ』ダイヤモンド社. ¥1,429(税別)  
倉島保美 2006『英語プレゼンテーションの技術』日本経済新聞社. ¥2,200(税別)

## 基礎演習Ⅳ

担当教員 李 イニッド

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

This course focuses on skills and practice in giving oral presentations. Students will acquire basic presentation skills through a variety of individual and group activities.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Review; abstract writing
2	Proofreading: self and peer editing
3	Mini presentations
4	The physical message (1)
5	" (2)
6	" (3)
7	The visual message (1)
8	" (2)
9	The story message (1)
10	" (2)
11	" (3)
12	" (4)
13	Final performance
14	Oral presentation (1)
15	" (2)
16	

## 【履修上の注意事項】

Students who enroll in this course must have taken 基礎演習Ⅲ from the same instructor.

## 【評価方法】

Attendance & Class Participation (40%). Homework (20%). Oral Presentation (40%).

## 【テキスト】

To be announced in class.

## 【参考文献】



## 基礎演習Ⅳ

担当教員 山本 直子

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

自分で研究テーマを探し、文献を読んでテーマを様々な角度から考察した上で、自分の考えを文章にまとめるという主体的な学習が大学では求められる。この授業では、テーマの探し方、リサーチの仕方、アウトラインの作り方、論文の書き方の基礎を学び、実際に自分で小論文を書く練習をする。また、自分で選んだテーマについて各自が発表し、クラスで討論を行い、それぞれのテーマについてより深く考察できるようにする。

### 【授業の展開計画】

第1週～7週

下記の項目について学ぶ。

1. 調査の仕方・文献の探し方
2. 論文の書き方（論文の構成、引用や註について）
3. 研究テーマの設定
4. アウトラインの作成
5. 口頭発表の仕方

第8週～16週

各自が自分で選んだテーマについて口頭発表を行う。各発表の後に、質疑応答、討論の時間を設ける。自分の選んだテーマについて小論文を書き、学期末に提出する。

### 【履修上の注意事項】

1. 欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
2. 遅刻2回で欠席1回の扱いになる。
3. 提出課題の締め切りは厳守すること。

### 【評価方法】

小論文50%、提出課題20%、発表20%、出席・授業参加10%

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献】

授業中に紹介する。

## 基礎演習Ⅳ

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 言語学概論 I

担当教員 柴崎 礼士郎

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

言語学の歴史は古い。古いということは様々な学派や理論があるということである。そこで言語学概論 I では、言語学を概観するアプローチを取り、ことばの学習上、より重要と思われるトピックを中心に講義を行う。学問的な重い響きを払拭するため、言語学というより「ことば学」として捉えたい。ことばを学習・習得できるのは人間だけであるという点で、「人間学」の基本と捉えても差し支えない。そして、ことばを知ることが、文学・教育・人類学などの他分野・日常生活に如何に直結しているかが伝われば、担当者として至福である。

### 【授業の展開計画】

開講時まで塾考するためTBA。  
関連分野との学問的交流の意味で、数人のゲスト・スピーカーを予定している。

### 【履修上の注意事項】

特になし。遅刻厳禁。

### 【評価方法】

①出席 ②課題 ③テスト ④授業への貢献度 ⑤発表(仮)

### 【テキスト】

現在選定中。開講時に指示する。

### 【参考文献】

大津由紀雄(編) 2009『はじめて学ぶ言語学』京都：ミネルヴァ書房 ¥2,800.  
中島平三・外池滋生(編著) 1994『言語学への招待』東京：大修館. ¥2,000.

## 言語学概論Ⅱ

担当教員 柴崎 礼士郎

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

言語学概論Ⅰでは言語学を概観することを狙いとした。そこで、言語学概論Ⅱでは一步踏み込んだアプローチを試みる。音韻論・形態論・統語論・意味論などの導入・説明・理解の後に、琉球沖縄という地理的特徴を活かした考察を試みたい。つまり、社会言語学・言語人類学・危機言語などという、隣り合わせの言語事情を考えてみたい。ことば学の視点から、琉球沖縄という地理的空間の魅力・意義・現状も確認してみたい。

### 【授業の展開計画】

開講時まで塾考するためTBA。  
関連分野との学問的交流の意味で、数人のゲスト・スピーカーを予定している。

### 【履修上の注意事項】

特になし。遅刻厳禁。

### 【評価方法】

①出席 ②課題 ③テスト ④発表 ⑤授業への貢献度、等

### 【テキスト】

現在選定中。開講時に指示する。尚、図書館の「指定図書」も参考にして下さい。

### 【参考文献】

S・ロメイン 1997『社会の中の言語』東京：三省堂。¥2,800。  
C・アジェージュ 2004『絶滅していく言語を救うために』東京：白水社 ¥7,140(英語版2009に挑戦して欲しい)

## 時事英語

担当教員 西平 功

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

この講義は、現在、マスコミで広く取り上げられている政治、経済、医療、環境、人権、スポーツ、犯罪、災害などを扱った英字新聞を読み、現代社会に対する理解を深めるとともに、それらを表現する英語力を高めることを目的としている。話題が多岐に亘り、分量も多いので、それなりの英語力が要求される。この講義は、現在、マスコミで広く取り上げられている政治、経済、医療、環境、人権、スポーツ、犯罪、災害などを扱った英字新聞を読み、現代社会に対する理解を深めるとともに、それらを表現する英語力を高めることを目的としている。

### 【授業の展開計画】

(ねらいの続き) 話題が多岐に亘り、分量も多いので、それなりの英語力が要求される。

授業の前半では、まず新聞英語の特徴を紹介し、次いで、いろいろな資料から集めた簡単な英文記事を数多く読んでゆく。後半では、The Japan Timesにあるリアルタイムの記事を集中的に読んでゆく。

### 【履修上の注意事項】

必ず予習して授業を受けること。復習を中心に勉強すると効果は半減する。時間を最も有効的に使用方法が予習である。これは他の英語科目にも当てはまる鉄則であろう。

### 【評価方法】

全講義の2/3以上の出席、中間テスト、期末テスト、など三つの基準により、総合的に判断する。

### 【テキスト】

なし。上記の授業の展開計画で説明した資料を担当者が準備して配布する。配布は原則とし講義の2週間前までに行う。

### 【参考文献】

## Special Oral Topics

担当教員 ヒーター シンプソン

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

The aim of this course is to redress the imbalance of oral communication classes which focus on Anglo- American, Asian or even Japanese issues in order to enable students to be able to talk about Okinawa in English.

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

Discussion of serious issues relating to war, peace and the environment will form a central part of this class. On the other hand, superficial, trivial or stereotypical ways of talking about Okinawa will form part of the content of the course, but only within a critical context.

### 【評価方法】

Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance, and self-evaluation

### 【テキスト】

No textbook is prescribed for this course.

### 【参考文献】

## Special Oral Topics

担当教員 -東恩納 ミシェル

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

## 【授業のねらい】

The aim will be for students to utilize all four language skills (reading, writing, listening, and speaking) in order to improve their ability to communicate in English. After reading a simplified version of each novel, we will watch a movie version in English (with English subtitles). We will then discuss the book in groups and as a class.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class and self-introductions
2	A Little Princess--read book, take short test, discuss with class
3	A Little Princess--watch movie, discuss with group
4	Phantom of the Opera--read book, take short test, discuss with class
5	Phantom of the Opera--watch movie, discuss with group
6	Pocahontas--read book, take short test, discuss with class
7	Pocahontas--watch movie, discuss with group
8	Black Beauty--read book, take short test, discuss with class
9	Black Beauty--watch movie, discuss with group
10	The Secret Garden--read book, take short test, discuss with class
11	The Secret Garden--watch movie, discuss with group
12	Romeo and Juliet--read book, take short test, discuss with class
13	Romeo and Juliet--watch movie, discuss with group
14	Preparation for final skits (acting out a final scene)
15	Final Exam (skits)
16	

## 【履修上の注意事項】

Students should refrain from using Japanese in class. Sleeping during class--including during movies--will not be tolerated. Let's have fun discussing movies and books in English!

## 【評価方法】

Grades will be based on short written tests (for each of the six books), participation in class and group discussions, and performance in a skit. Students are expected to attend at least 75% of all classes to receive a passing grade for this class.

## 【テキスト】

Copies will be provided; however, students may purchase their own copies from the bookstore, if they desire.

## 【参考文献】

Though not required, students may wish to purchase the novels, which are available as Oxford Bookworms (Graded Readers)

## Special Oral Topics

担当教員 クレイグ K ジェイコブソン

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】



## 早期英語教育

担当教員 津波 聡

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

第2言語習得の理論や事例を基に、早期英語教育の概要を学びます。又、日本の早期英語教育、特に小学校英語教育の現状や課題について学習します。

### 【授業の展開計画】

前半はグループ発表やディスカッションを通して第二言語習得や早期英語教育について学習し、後半は小学校英語の現状や課題、基本的な指導技術についてワークショップ形式で学習します。

### 【履修上の注意事項】

- (1) 座席はグループごとに座る
- (2) 無断欠席・遅刻をしない  
(遅刻2回で欠席1回と見なします。1/3以上欠席の場合単位は認められません。)
- (3) グループ発表、ワークショップの前に課題図書を熟読しておく
- (4) 辞書持参

### 【評価方法】

- (1) 授業態度（出席状況、発言）・・・・・・・・40%
- (2) テスト（中間、期末）・・・・・・・・40%
- (3) 課題（グループ発表、提出物）・・・・・・・・20%

### 【テキスト】

講義の中で課題図書一覧を配布します

### 【参考文献】

講義の中で適宜紹介します。

## 第2言語習得論

担当教員 松田 節子

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

子どもの母語習得（第1言語習得）はほとんど例外なくうまく行くのに、大人の外国語習得（第2言語習得）はなぜ多くの場合うまく行かないのか。どうすれば外国語学習を成功させることができるのか。このような素朴な疑問について、年齢、動機付け、母語の影響、効果的な学習法など、様々な観点から答えを探る。

### 【授業の展開計画】

授業開始時にシラバスを配布する。

### 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと。（遅刻3回で1回の欠席とみなす。）
- (2) 指定された箇所を熟読して、必ず質問や意見をもって授業に臨むこと。
- (3) 積極的に授業に参加すること。

### 【評価方法】

出席、課題、プレゼンテーション、授業態度、授業への貢献度、テストの結果などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業開始時に指示する。

### 【参考文献】

適宜配布する。

## 日本語学概論 I

担当教員 尚 真貴子

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考 日本文化学科提供

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

日本語教育を実際に行う場合に役立つように、現代語としての日本語を説明する上で必要な知識を幅広く学習する。音声・語彙・意味・文法・表記などの個々の分野で、日本語教育面での重要事項や現代語の特質についてできる限りふれていきたい。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

積極的に教室活動に参加してほしい。

### 【評価方法】

総合的に評価（試験、発表等）するが、特に平常点（出席率、宿題、授業への参加度等）を重視する。

### 【テキスト】

配布資料と参考文献を中心に講義を進めていく。

### 【参考文献】

『概説日本語学』 鈴木 一彦他（明治書院）  
『日本語概説』 加藤 彰彦他（おうふう）

## 日本語教材研究演習

担当教員 尚 真貴子

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考 日本語教員資格科目

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

日本語教育に必要な「教材」に関する専門的な知識・能力を習得する。日本語教育用教材の基礎知識を学び、教材全体を体系的に把握し比較分類する。また個々の教材の分析などを通して、実際の現場でよりよい教材の活用ができることを目標とする。

具体的には、「教材論の体系的把握」「学習者と教材」「コースデザインと教材」「教科書と副教材」「教材の比較分類」「教材の具体的使用法」「初級教科書の全体分析と課分析」「視聴覚教材」などが内容となる。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

「日本語表現法演習」「日本現代語文法」を履修済みのこと。

### 【評価方法】

総合的に評価するが、特に平常点を重視。依って出席率、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。さらに期末テストの評価が加わる。

### 【テキスト】

『みんなの日本語(初級Ⅰ本冊)』 スリーエーネットワーク

『みんなの日本語(初級Ⅱ本冊)』 スリーエーネットワーク

プリント使用。必要に応じて資料等を配布。

### 【参考文献】

『日本語教材概説』 河原崎 幹夫他著 北星道書店, 『日本語教科書ガイド』 国際交流基金

『日本語教授法』 石田敏子著 大修館書店, 『日本語教育の教材』 岡崎 敏雄著 アルク

## 日本語教授法演習 I

担当教員 尚 真貴子

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考 日本語教員資格科目

## 【授業のねらい】

外国語としての日本語教育がどのように始まり、どのような経緯を辿ったか概観した後、現在国内外で広く用いられている教授法・指導法がどのような言語理論、学習理論、教授理論に基づいているか比較検討する。実際の授業の進め方については、別にシラバスを作成しクラスで配布する。

## 【授業の展開計画】

- 1 週目 概要紹介
- 2 週目 日本語教育の特色
- 3－5 週目 第二言語習得理論（中間言語論を含む）
- 6－10 週目 外国語教授法のいろいろ
- 11－13 週目 日本語教育の歴史・日本語教育の目標
- 14－15 週目 日本語の音声の特徴とその指導・日本の文字とその指導

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

出席率＋発表＋レポート＋テスト＋授業態度

## 【テキスト】

- (1) 石田 敏子『日本教授法』 大修館書店
- (2) 『みんなの日本語（初級 I 本冊）』

## 【参考文献】

参考図書リストをクラスで配布する。

## ビジネス英語

担当教員 森山 憲一

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

この講座は受講する学生が将来において、英語を必要とする企業等に就職することを想定して、英文履歴書の書き方を始めとして、業務の種々の場面で要求されるコレスポンドの一般的な形式、文章の構成、用語、適切な表現等を手紙、ファックス、e-メール、電話等の伝達手段にあわせて作成し、演習します。その後、企業活動の重要な分野である取引関係の英語に重点をおいて、市場調査、引き合い、注文、決済等に関連する英語表現を学習します。（続きは展開計画へ）

### 【授業の展開計画】

（授業のねらい続き）

ビジネス英語は要件を明確かつ効果的に相手に伝えることが要求されます。そのため、この講義においては一つのことについて多彩な表現ができるように演習します。また、具体的な学習方法については、それぞれのトピックにおけるモデルレターを中心に問題形式で進めるものとします。

#### 授業の展開計画

この授業は、ビジネス英語を初めて学ぶ学生を対象に進められます。内容は、次の展開計画に沿って、通信文を中心に会話に適した表現も学習するものとします。

- (1) 講義内容および授業の進め方の説明
- (2) 基礎的ビジネスレターの形式、構成、内容等の学習
- (3) ファックス、電子メール及び電話による基礎的ビジネスコミュニケーションの学習
- (4) 電話、手紙による面会の申し入れ、ホテルの予約の入れ方の学習
- (5) オフィスの移転、支店開設の通知文書作成の学習
- (6) アンケートの回答、資料の送付依頼文書作成の学習
- (7) レセプションへの招待状、慶弔に関する文書作成の学習
- (8) 会議の通知、議事録作成の学習
- (9) 社内研修の案内（文書、電話）、社外研修の報告のやり方の学習
- (10) 日程の中間報告（電話、文書）の形式、構成、内容等の学習
- (11) カタログ送付依頼、製品に関する問い合わせ等引き合いに関するコミュニケーション（電話、文書）の学習
- (12) 製品の注文、代金の回収、クレーム等に関するコミュニケーションの学習
- (13) 英文履歴書の作成、応募、推薦状等雇用に関する文書作成及び面接（CD使用）の学習
- (14) ビジネスレターの形式の学習
- (15) ビジネスコミュニケーション全般のまとめ。 16回目にテストを行います。

### 【履修上の注意事項】

ビジネス英語は、場面の一つ一つを積み上げて全体の知識を形成することが重要なので、欠席や遅刻をしないように心がけてください。

### 【評価方法】

- (1) 成績は100点満点としその評価は本学の評価基準によるものとします。
- (2) 成績の評価は、60点以上を合格、60点未満を不合格とし、次の基準に従って表示します。
 

優	……	80点以上	良	……	70点以上80点未満
可	……	60点以上70点未満	不可	……	60点未満

### 【テキスト】

(株)南雲堂 豊田暁著「Essentials of Global Business English」

### 【参考文献】

## 異文化理解 I

担当教員 李 イニッド

配当年次 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

本講義では、自分とは異なる文化を持つ様々な人たちのライフスタイルや価値観などを認識させ、異文化への気づきを促すこと及び異文化に対する理解能力を高めることを目標とします。日本人と外国人の生活や文化などの相違に気づかせるクイズ、グループワーク、映画鑑賞、調査発表などを通して異文化社会の多様性と現実を学びます。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化ってなに？
2	外国人が感じる日本の「ふしぎ」
3	英語で遊ぼう (1)
4	” (2)
5	アメリカ人の知らない英語 (1)
6	” (2)
7	映画鑑賞：外国人のユーモア
8	知っておきたい英語の知識 (1)
9	” (2)
10	学生発表・評価 (1)
11	” (2)
12	” (3)
13	” (4)
14	” (5)
15	” (6)
16	

## 【履修上の注意事項】

特になし

## 【評価方法】

出席率及び授業参加態度 (50%)、プロジェクト及び口頭発表 (50%) により総合的に評価します。

## 【テキスト】

異文化理解おもしろクイズ 永倉由里著 (開拓社) 2004年

## 【参考文献】

## 異文化理解Ⅱ

担当教員 李 イニッド

配当年次 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

前期の「異文化理解Ⅰ」に続き、本講義では、自分とは異なる文化を持つ様々な人たちのライフスタイルや価値観などを認識させ、異文化への気づきを促すこと及び異文化に対する理解能力を高めることを目標とします。日本人と外国人の生活などの相違に気づかせるクイズ、グループワーク、映画鑑賞、調査発表などを通して異文化社会の多様性と現実を学びます。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	英語の「構え」でコミュニケーション
3	生活文化から生じるコミュニケーション・ギャップ (1)
4	” (2)
5	知っておきたい一般知識
6	映画鑑賞：異文化間に生じる諸問題を考えよう！ (1)
7	” (2)
8	” (3)
9	学生発表・評価・Q&A (1)
10	” (2)
11	” (3)
12	” (4)
13	” (5)
14	” (6)
15	” (7)
16	

## 【履修上の注意事項】

特になし

## 【評価方法】

出席率及び授業参加態度 (50%)、プロジェクト及び口頭発表 (50%) により総合的に評価します。

## 【テキスト】

異文化理解おもしろクイズ 永倉由里著 (開拓社) 2004年

## 【参考文献】



## インターネット英語

担当教員 ホール ミンキ

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

## 【授業のねらい】

My main aim is to challenge students to become actively involved in the English world of the Internet. Students will be expected to take the initiative in writing blogs, creating their own pages, listening to podcasts, chatting with others, posting on bulletin boards, and choosing their own creative ways to be involved on the Internet.

## 【授業の展開計画】

Students will work individually but will interact with classmates and outsiders through the Internet. Here are some of the activities that we will do during class:

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class, opening new e-mail accounts, setting up group pages, etc.
2	Setting up one's own webpage, making contacts
3	Social networking (MySpace, Friendster, BingBox, Xanga, etc.)
4	Reading and writing blogs (Blogster.com, etc.)
5	Posting on bulletin boards
6	On-line chat (OIU VIVA site, etc.)
7	On-line chat (OIU VIVA site, etc.)
8	Watching English videos (YouTube)
9	Watching English videos (YouTube)
10	Listening to and participating in podcasts
11	Listening to and participating in podcasts
12	On-line English Tests (TOEIC, TOEFL, etc.)
13	On-line English Tests (TOEIC, TOEFL, etc.)
14	On-line vocabulary study and English games
15	English study through song lyrics
16	

## 【履修上の注意事項】

Students are assumed to have a basic understanding of how to use the Internet, but instruction will be provided if needed. All work should be done in English. Visiting non-English sites will result in an automatic deduction in the final grade.

## 【評価方法】

On-line folders will be evaluated three times during the semester, and the three grades will be averaged together to calculate the final grade. Students are expected to submit a 100-word absence report for each class missed, but still must attend more than 75% of all classes. Students are reminded to save a copy of everything that they post to the "My Posts" folder in their yahoo.com mail account page.

## 【テキスト】

No textbook is required for this class. However, students are encouraged to bring an electronic dictionary to every class.

## 【参考文献】

The address for our group page is as follows:  
<http://groups.yahoo.com/group/OIUInternetEnglish/>

## 英語学特殊講義

担当教員 柴崎 礼士郎

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

本講義では社会言語学を立脚点とし、ことばの日常的使用に注目する。多言語社会、ダイグロシア、言語の死、ジェンダーと言語、ポライトネス、etc.を取り上げる予定である。また、近年の言語人類学の知見も取り入れる可能性もあり、特殊講義らしい多様な内容になるように現在準備中である。シラバス執筆時（2010年1月）から開講時（2010年10月）までの間に、興味深いテーマが見つければ随時取り入れて行きたい。科目名「英語学特殊講義」という堅苦しい名前に惑わされず、ことばに興味のある人は受講してもらいたい。

### 【授業の展開計画】

開講時まで塾考するためTBA。尚、参加者数に応じて授業形式を柔軟に変えることもある。

### 【履修上の注意事項】

特になし。

### 【評価方法】

①出席率 ②課題 ③発表 ④授業態度

### 【テキスト】

現在選定中につきTBA。開講時に指示します。尚、図書館の「指定図書」も随時参考にして下さい。

### 【参考文献】

東 照二 2009『社会言語学入門<改訂版> 生きた言葉のおもしろさに迫る』東京：研究社 ¥2,450.  
デイヴィッド・クリスタル 2004『消滅する言語』東京：中公新書. ¥880（税別）.

## 英語教育教材研究

担当教員 野口 正樹

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

本講義は、英教法Ⅰの実践編及び英教法Ⅱの補足編になります。従って、英教法履修者は、“原則”履修することが望ましいです。文部科学省検定中学・高校教科書を取り上げ、抽出した各 section/lesson の題材を分析し、理想的な教材を作成します。flash/picture cards の作り方、target sentences の導入・理解・運用を目指す各種活動、復習・定着・まとめの ideas、黒板・教室の使い方、音楽・照明・PC・screen の活用等、教室内外のあらゆる素材を利用して、学習者の異文化コミュニケーション能力と心の豊かな人格の陶冶を図ります。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡ください。
- ③ 課題は、期限までに毎時完成させましょう。
- ④ 携帯電話は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

### 【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation
- ③ 個人・相互評価
- ④ 質疑応答
- ⑤ 課題
- ⑥ 受講姿勢
- ⑦ 教材作成

### 【テキスト】

講義内で連絡します。

### 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

**英語圏社会文化特殊講義**

担当教員 ヒーター シンプソン

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

**【授業のねらい】**

This class is intended to give students an opportunity to explore and question issues relating to society and culture in parts of the world outside Britain and the United States where the English language serves some function.

**【授業の展開計画】**

In collaboration with the teacher, students will be expected to produce a bilingual group project and a final individual report (in English) focusing on an area of their choice.

A number of themes will be proposed, but these are highly negotiable.

**【履修上の注意事項】**

\* For scheduling reasons, I would like to advise students who are taking this class not to register for イギリスの社会と文化.

\* Communication of ideas will take precedence over medium of communication.

**【評価方法】**

Assessment will be based on the following:

\* assignments relating to course content

\* attendance and participation

**【テキスト】**

No textbook is required for this class. Instead, students will be expected to find information from a variety of sources.

**【参考文献】**

## 英米演劇概論

担当教員 西原 幹子

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

本講では、英米の演劇史の流れを概観しながら、代表的な作品をいくつか取り上げる。具体的な作品読解を通して、物語の舞台となっている時代の社会、生活、文化について理解を深め、作品それぞれの魅力を味わう。

### 【授業の展開計画】

- 1週目 講義内容の説明
- 2週目 イギリス中世演劇
- 3～5週目 シェイクスピアと大衆演劇
- 6～7週目 サヴォイ・オペラ
- 8～10週目 風習喜劇：Oscar Wilde の作品読解
- 11週目 アメリカ大衆演劇
- 12～14週目 アメリカ家庭演劇：Tennessee Williams の作品読解
- 15週目 現代演劇

### 【履修上の注意事項】

作品読解の際には、グループ発表の形式を取ります。

### 【評価方法】

学期末試験60%、授業への貢献度40%

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

## 英米詩概論

担当教員 西原 幹子

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 観光英語

担当教員 東 菜美

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 国際コミュニケーション論

担当教員 西平 功

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

英語学習の目的はいろいろとあるが、その一つに、外国人とのコミュニケーション能力を高めるというのがある。つまり、英語をコミュニケーション・スキルとみなし、外国人との交流や仕事をより円滑に進める手段として役立てようとするのである。いくら英語が上手でも、それだけでは不十分で、コミュニケーションに関する基本的な知識や体験がないと、そのスキルを十分に発揮することは出来ない。この講義の目的は、特に文化的な側面から、外国人とのコミュニケーションに関する基本を明らかにしようというものである。

### 【授業の展開計画】

(ねらいの続き) テキストも、英語力の涵養と国際コミュニケーション論の習得という二つの目的に合致したものを選んだ。講義は英語に比重をおきながら、日本語も使用する。テキストには、各章に学生のコミュニケーション活動を促すセクションがある。またグループ発表も行う。

テキストは、三部、15章構成になっていて、一部がnon-verbal communication, 二部がcommunicating with words, 三部がdiversity in valuesとなっている。これからも明らかなように、本講義は文化を基盤とした国際コミュニケーション論である。またテキストは、英語力のアップも強調している。

(参考書)

T. モリソン、W. A. コナウエイ、G. A. ボーデン(幾島幸子訳)『世界60カ国比較文化事典(Kiss, Bow or Shake Hands)』マクミランランゲージハウス、1999年

この事典の中から、いろいろな国、例えば、タイ、サウジアラビア、アメリカ合衆国、イギリス、韓国、中国、オーストラリアなどに関する文化事情を国別に印刷して配布し、その資料を基に各国の文化事情をプレゼンテーションしてもらおう。プレゼンはグループ単位で行う。グループ分け、プレゼンの時期、方法などについては、講義の中で具体的に説明する。

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

- (1) 出席(講義の2/3以上の出席が必要。1/3以上の欠席は不可)
- (2) グループ・プレゼンテーションの評価。これはプレゼンを聞いた受講生全員による評価で、グループに対する評価がそのままメンバー全員に対する同一の評価となる。
- (3) 中間試験と期末試験

### 【テキスト】

Celilia Ikeguchi, Kyoko Yashiro, Beyond Boundaries: Insights into Culture and Communication, 桐原書店、2008年(¥1800)

### 【参考文献】



## コミュニケーション概論

担当教員 兼本 円

配当年次 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## CALL教授法

担当教員 野口 正樹

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

## 【授業のねらい】

本講義は、英教法 I 及び英語教材研究では扱えない CALL 機器を活用した教授実践を行います。従って、英教法履修者は、“原則”履修することが望ましいです。先ず、CALL 教室の可能性を一斉授業の中で確認します。次に、教師卓の機器使用法を受講者一人ひとりに demo を通じて伝えます。最後に、受講生各自が教師となり、CALL 機器を使用した授業を行います。その際、CALL 教授にふさわしい教材作成が必要になります。もつとも、教材開発までは求めず、市販の教材を加工して教育機器の長所を導き出す工夫を目指します。

## 【授業の展開計画】

## 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡ください。
- ③ 課題は、期限までに毎時完成させましょう。
- ④ 携帯電話は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

## 【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation
- ③ 個人・相互評価
- ④ 質疑応答
- ⑤ 課題
- ⑥ 受講姿勢
- ⑦ 教材作成
- ⑧ CALL 教授実践

## 【テキスト】

講義内で連絡します。

## 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

## 専門演習 I

担当教員 尚 真貴子

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

日本語学習者は目的や背景等も多様化しており、学習者のニーズに答えられる教員の養成が必要とされている。そこで第二言語としての日本語の習得研究と日本語教育について、色々なテーマを取り上げていく。さらに言葉としての日本語だけでなく、社会・心理的側面、言葉の扱い方、教え方及び日本語学習者にとって役立つ課題を捉えていく。

## 【授業の展開計画】

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

出席率＋課題＋発表＋授業への貢献度

## 【テキスト】

テキストはプリント教材を準備する。

## 【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

**専門演習 I**

担当教員 ピーター シンプソン

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

**【授業のねらい】**

The purpose of this course is to explore the nature of language as a social phenomenon (社会言語学). In doing so, I will propose a number of key themes and also aim to draw on the linguistic resources students bring to the classroom.

**【授業の展開計画】**

Among probable areas of relevance are issues relating to:

- \* linguistic variation in Okinawa
- \* Japanese and Asian Englishes
- \* literacy practices
- \* politeness
- \* language and identity
- \* language standards and standard languages
- \* English as an international language
- \* linguistic taboos
- \* gang language

At the end of the course students will be expected to produce a group presentation and report on their chosen theme.

**【履修上の注意事項】**

For practical reasons classes will be conducted predominantly in English, though I do not intend to impose an “English only” policy.

**【評価方法】**

Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance

**【テキスト】**

No textbook is required for this course. With guidance, students are expected to discover relevant materials for themselves and to share these with the class as a whole.

**【参考文献】**

## 専門演習 I

担当教員 野口 正樹

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

英語の『なぜ?』に答える形で講義を行います。“I’m loving it.” はなぜ進行形で表現出来るのか。“psychology” の “p” はなぜ発音されないのか。日本語では家畜名「豚」に「肉」を付けるだけで食肉の「豚肉」になるのに、英語では“pig” を “pork” と表現し、“pig meat” と普通なぜ表現しないのか。“look” は視線を向けて見るはずなのに、“He looks happy.” と「...のように見える」といった意味になるのは?なぜ、“He sees happy.” と言えないのか。これらの疑問を解明しながら、英語全般に関する知識を深めます。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な事由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

### 【評価方法】

- ① 授業出席度（原則皆勤）
- ② presentation
- ③ 疑問解明度
- ④ 質疑応答・全体討論
- ⑤ task 評点
- ⑥ 受講姿勢

### 【テキスト】

講義内で適宜配布します。

### 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

## 専門演習 I

担当教員 津波 聡

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

映画で学ぶコミュニケーション演習（映画の視聴、精聴、シャドーイング、スクリプトの音読等を通して、コミュニケーション力の向上を図ります。）

## 【授業の展開計画】

映画（Ghost）の視聴、精聴、シャドーイング、スクリプトの音読等の演習に加え、ストーリーに関するディスカッションを英語で行います。

## 【履修上の注意事項】

無断欠席、遅刻をしないこと（遅刻2回で欠席1回と見なします。1/3以上欠席がある場合、単位が認められません。）

## 【評価方法】

授業態度（出席状況、積極性）、クイズ、スピーチ、グループプロジェクトを総合的に評価します

## 【テキスト】

Ghost：映画で学ぶコミュニケーション演習（センゲージラーニング）

## 【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

## 専門演習 I

担当教員 李 イニッド

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

### 【授業のねらい】

This course aims to introduce students to the basic concepts of nonverbal communication, with an emphasis on the problems and opportunities of communication in a variety of intercultural contexts.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	Verbal vs. nonverbal communication
3	Body Movements & Gestures
4	Facial Expressions
5	Eye Behavior & Gaze
6	Paralanguage
7	Touching Behavior
8	Space & Distance
9	Time & Silence; Gender Differences
10	Clothing & Personal Artifacts
11	The Environment & Colors; Supervisor-Employee nonverbal relationships
12	Cross-cultural Differences; Teacher-Student nonverbal relationships
13	Oral presentations (1)
14	" (2)
15	" (3)
16	

### 【履修上の注意事項】

No particular requirements.

### 【評価方法】

Attendance & Class Participation (50%). Term Paper & Oral Presentation (50%).

### 【テキスト】

To be announced in class.

### 【参考文献】

## 専門演習 I

担当教員 山本 直子

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

この講座は、映画鑑賞を通してイギリスの文化を学ぶことを目的とする。「階級」、「人種」、「移民」、「国民性」など様々な観点からイギリスを多角的に理解し、イギリスの文化、社会、歴史についての幅広い基礎知識を身につけることを目指す。

## 【授業の展開計画】

- \*主に下記の映画を取り上げる。
- \*作品やテーマについて受講者に発表してもらおう。

テーマ「多文化社会としてのイギリス—移民と人種—」  
『ベッカムに恋して』(Bend It Like Beckham)  
『マイ・ビューティフル・ランドレット』(My Beautiful Laundrette)

テーマ「イギリスの階級と言語」  
『マイ・フェア・レディ』(My Fair Lady)

テーマ「IRAと北アイルランド」  
『マイケル・コリンズ』(Michael Collins)

## 【履修上の注意事項】

- ①欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
- ②遅刻2回で欠席1回の扱いになる。
- ③提出物の締め切りは厳守すること。

## 【評価方法】

出席・授業参加10%、課題10%、発表20%、レポート60%

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献】

参考文献は授業中に紹介する。



## 専門演習Ⅱ

担当教員 尚 真貴子

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

日本語教育を含めさまざまなテーマに関する論文を徹底的に読み込んでいく。その際に担当者はレジュメを作成し発表する。その後、個人またはグループでテーマの設定、資料収集、調査、分析、考察、発表など一連の研究のプロセスを体験することにより、卒業論文の作成を行うための基本的な知識、技術を身に付ける。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

出席率＋課題＋発表＋授業への貢献度

### 【テキスト】

テキストはプリント教材を準備する。

### 【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

**専門演習Ⅱ**

担当教員 ピーター シンプソン

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

**【授業のねらい】**

The purpose of this course is to explore the nature of language as a social phenomenon (社会言語学). In doing so, I will propose a number of key themes and also aim to draw on the linguistic resources students bring to the classroom.

**【授業の展開計画】**

Among probable areas of relevance are issues relating to:

- \* linguistic variation in Okinawa
- \* Japanese and Asian Englishes
- \* literacy practices
- \* politeness
- \* language and identity
- \* language standards and standard languages
- \* English as an international language
- \* linguistic taboos
- \* gang language

At the end of the course students will be expected to produce an individual report and presentation on their chosen theme.

**【履修上の注意事項】**

For practical reasons classes will be conducted predominantly in English, though I do not intend to impose an “English only” policy.

**【評価方法】**

Evaluation is by continuous assessment based on course work, participation and attendance

**【テキスト】**

No textbook is prescribed for this course. With guidance, students are expected to discover relevant materials for themselves and to share these with the class as a whole.

**【参考文献】**

## 専門演習Ⅱ

担当教員 野口 正樹

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

英語の『なぜ?』に答える形で講義を行います。例えば、動詞“go”の活用形は“go, went, gone”ですが、過去形の“went”だけ形が大きく違うのはなぜ? “Do you know him?”といった簡単な言い方があるのに、“Do you know who he is?”といった言い方をする/出来るのはなぜ? “I think that 文.”を“I think 文.”と“that”を省いて表現するのはなぜ? “play baseball”なのに“play the violin”とするのは? そもそも、大文字と小文字があるのは? これらの疑問を解明しながら、英語全般に関する理解を深めていきます。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

### 【評価方法】

- ① 授業出席度 (原則皆勤)
- ② presentation
- ③ 疑問解明度
- ④ 質疑応答・全体討論
- ⑤ task 評点
- ⑥ 受講姿勢

### 【テキスト】

講義内で適宜配布します。

### 【参考文献】

講義内で適宜配布または連絡します。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 津波 聡

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

- ① 映画・スピーチの精聴、音読を通してコミュニケーション能力の向上を図る
- ② 論文作成の基礎を学び、卒論のトピックを決定する

### 【授業の展開計画】

字幕無し映画視聴に加え、有名なスピーチを精聴します。コース後半では、卒論の書き方を学習し、研究概要を作成します。

### 【履修上の注意事項】

無断欠席・遅刻をしないこと（遅刻2回で欠席1回と見なします、1/3以上欠席がある場合、単位は認められません）

### 【評価方法】

出席状況、授業態度（発表、積極性）、スピーチ、グループプロジェクトを総合的に評価します

### 【テキスト】

Ghost：映画で学ぶコミュニケーション演習（センゲージラーニング）

### 【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 李 イニッド

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

### 【授業のねらい】

This course is designed to help students develop an awareness of the contemporary research on gesture and acquire the basic skills in observing and gestures in interpersonal communication.

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction/Review
2	Gesture Studies: Introduction; History; Analysis
3	Gesture Studies: Functions; Classification; Theories
4	Review of L2 Gesture Studies (1)
5	Review of L2 Gesture Studies (2)
6	Why do we gesture?
7	Research Methods (1): Data collection
8	Research Methods (2): Transcription & Analysis I
9	Research Methods (3): Transcription & Analysis II
10	Project (1)
11	Project (2)
12	Project (3)
13	Oral presentations (1)
14	Oral presentations (2)
15	Oral presentations (3)
16	

### 【履修上の注意事項】

Students who enroll in this course must have taken 専門演習I from the same instructor.

### 【評価方法】

Attendance & Class Participation (50%). Term Projects & Oral Presentation (50%).

### 【テキスト】

To be announced in class.

### 【参考文献】

## 専門演習Ⅱ

担当教員 山本 直子

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

この講座は、文学作品の読解と映画鑑賞を通してイギリスの文化と文学を学ぶことを目的とする。「人種」、「ジェンダー」、「帝国主義」、「社会ダーウィン主義」など様々な観点からイギリスを多角的に理解し、イギリスの文化、社会、歴史についての幅広い基礎知識を身につけることを目指す。

## 【授業の展開計画】

- \*主に下記の文学作品と映画を取り上げる。
- \*作品やテーマについて受講者に発表してもらおう。

テーマ「オリエンタリズムと帝国主義」  
『インドへの道』(A Passage to India)

テーマ「大英帝国の衰退と社会ダーウィン主義」  
『タイム・マシン』(Time Machine)

テーマ「世紀末のイギリスと＜新しい女＞」  
『ドラキュラ』(Dracula)

## 【履修上の注意事項】

- ①授業に英和辞典を持って来ること。
- ②欠席は全授業回数の3分の1を超えないようにすること。
- ③遅刻2回で欠席1回の扱いになる。
- ④提出物の締め切りは厳守すること。

## 【評価方法】

出席・授業参加10%、課題10%、発表20%、レポート60%

## 【テキスト】

プリントを配布する。

## 【参考文献】

参考文献は授業中に紹介する。

## Discussion Skills

担当教員 ダグラス トライカット

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## Discussion Skills

担当教員 ジョーン ターバート

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】



## Debate

担当教員 ホール ミンキー

配当年次 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

The aim of this course is to introduce students to the theory and practice of debate, with an emphasis on actual debating. Students will also receive some guidance in public speaking, especially as it pertains to debate.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class and methods, self-introductions
2	Differences between debate and conversation, types of debate
3	The value of debate, debate and culture, developing a critical attitude
4	Principles of debate, preparing for a debate, outlining
5	Basics of public speaking
6	Debate 1 (easy topic)
7	Introduction to policy debate
8	Debate preparation in groups
9	Debate preparation in groups
10	Debate 2 Resolved: That English Should be Taught in All Japanese Elementary Schools
11	Evaluation of Debate 2, choosing topic for final debate
12	Debate preparation in groups
13	Debate preparation in groups
14	Debate rehearsal and critique
15	Debate 3: Formal Policy Debate on a Student-Chosen Topic
16	

## 【履修上の注意事項】

Students should be prepared to spend most of each period speaking in English. Debate speeches should neither be memorized nor read, but they should be well-rehearsed. Students may use note cards during their speeches, but they should be able to maintain eye contact with the audience. Let's have fun debating!

## 【評価方法】

Students will be evaluated based on class performance, short tests, self-evaluations, homework (research and debate preparation), notes taken during class, and performance in debates. Students must attend at least 70% of all classes to receive a passing grade. DO NOT BE ABSENT FOR ACTUAL DEBATES.

## 【テキスト】

No textbook is required. However, students will be required to bring an electronic dictionary and a B5 notebook to every class. Students are expected to take extensive notes during class.

## 【参考文献】

None.

## 同時通訳

担当教員 島袋 美智子

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

同時通訳の魅力、通訳者の心構え、準備などについて述べ、訓練メニューの説明を行います。半年の講座ですので、まず逐次通訳の訓練を行い、同じテキストを用いて同時通訳の基礎訓練を行います。ペアワークについて学びます。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	通訳について、訓練メニュー、学習法、単語増強の必要、リスニング強化について
2	テキスト1：シャドーイング、英語要約、逐次通訳、ノートテイキング
3	テキスト2：英語のインタビューを聞いて英語で要約を行う。
4	テキスト2：同じテキストでメモ、逐次通訳を行う。プロの通訳をテープやDVDで聞く。
5	テキスト2：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、ペアでプレゼンを行う。
6	テキスト3：DVDの録画でプロ通訳者の通訳を聞く。分析を行う（レポート提出）
7	テキスト3：数字の英語を聞いて通訳用メモを取り、日本語でアウトプットする。
8	テキスト4：「通訳の極意」のページから日本語→英語へのサイトトランスレーションの練習
9	テキスト5：日本語のスピーチを聞いて英語での要約を行う。逐次、同時通訳の訓練を行う。
10	テキスト5：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、プレゼンを行う（ペアで）
11	テキスト6：英語のスピーチを聞いて要約をする。メモ、逐次を行う。
12	テキスト7：日本語のスピーチを聞いて英語で要約、メモ取りのプレゼンを行い、逐次通訳。
13	テキスト7：同じテキストでサイトラ、同時通訳練習、プレゼン（ペアワーク）
14	期末テストのリハーサル：ラボでの録音のため、一度練習をして本番に臨む。
15	期末テストは通訳実技テストを録音する（同時通訳1つ、サイトトランスレーション1つ）
16	

### 【履修上の注意事項】

ラボ教室使用予定。スピーチ、音声録音用の記録メディア（USB、CD-ROM）を常に携帯して下さい。クラス毎に課題があり、リスニング、シャドーイング、サイトトランスレーションなどの予習が必要と考えて下さい。出席を重視しますのでなるべく休まないようにして下さい。

### 【評価方法】

1. 学期の終了時に通訳実技テストを行う（成績は5段階で評価。3以上が講座を修了することができる）
2. 出席に関しては全クラスのうち三分の二以上を修了の条件とする。出席を重視する。
3. 課題として「プロ通訳パフォーマンス分析」のレポートを提出する。

### 【テキスト】

1. 「通訳の極意」著者：小林敦夫（こばやしあつお）出版社：（株）南雲堂フェニックス 03-3202-5625
2. 講師の作成する自主テキスト（新聞記事、online記事、スピーチ及びインタビューテキスト、DVD など）

### 【参考文献】

1. 「トレンド日米表現辞典」小学館 03-3230-5745
2. 電子辞書（少なくとも20万語以上の英語辞書、広辞苑）
3. 通訳翻訳ジャーナル
4. シネマ及び字幕
5. 自己作成単語増強ノート

## 日英語比較研究

担当教員 松田 節子

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

## 【授業のねらい】

この講義では日本語と英語の比較を行い、日本語らしさ、英語らしさの要因を整理する。整理の方法としては、日本人学習者が英語を習得する際に困難を感じる問題点を取り出し、構文、意味、音韻、発想などの各見地から英語との比較研究を試み、それらの困難点を克服する方法を探る。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業内容の紹介とグループ編成
2	グループごとに英語の学習困難点を挙げ、その一覧表を作成、提出する。
3	提出した問題点についてグループで検討を加える。グループ発表予定を配布。
4	第1グループと第2グループの発表と質疑応答
5	第3グループと第4グループの発表と質疑応答
6	問題点の整理ーその1
7	第5グループと第6グループの発表と質疑応答
8	第7グループと第8グループの発表と質疑応答
9	問題点の整理ーその2
10	第9グループと第10グループの発表と質疑応答
11	第11グループと第12グループの発表と質疑応答
12	問題点の整理ーその3
13	第1～第6グループの補足説明
14	第7～第12グループの補足説明
15	全体のまとめ
16	

## 【履修上の注意事項】

この科目の登録を希望するものは、すでに「英語学概論」か「英語学特殊講義Ⅰ」か「日本語学概論」か、すくなくとも、「日本現代語文法Ⅰ・Ⅱ」を履修済みのこと。

## 【評価方法】

出席、授業への貢献度、課題研究の成果と発表態度・内容、質疑に対する応答の内容などを評価の対象とする。

## 【テキスト】

選定中（講義開始時に指定する）

## 【参考文献】

適宜紹介する。

## 日本語教育実習 I

担当教員 尚 真貴子

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考 日本語教員資格科目

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1.0

### 【授業のねらい】

「日本語教材研究演習」「日本語教授法演習 I・II」で学んだ指導理論と演習内容を実際に応用して行く。「教育実習 I」では、主に大学内の日本語クラスの授業見学を行い、評価及び報告レポートを提出する。また、初級レベルと中級レベルの模擬授業実習も行う。その際、授業実践の方法論をふまえながら学習指導案や教材作成もする。さらに、それぞれの模擬授業に対する質疑応答・感想・意見を交わし論議を深めていく。協定校からの短期研修生のための日本語研修期間中には、グループ・ティーチングなども行う。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

「日本語表現法演習」「日本現代語文法」「日本語教材研究演習」「日本教授法演習」を履修済みのこと。

### 【評価方法】

積極的な教室活動等への参加、授業見学、報告レポート提出、模擬授業、出欠等を総合して行う。

### 【テキスト】

必要に応じて資料等を配布する。

### 【参考文献】

『日本教育辞典』日本語教育学会編(大修館書店)，『日本語授業学入門』縫部 義憲 (歴々社)  
『日本語教育ハンドブックシリーズ』国際交流基金編，『創造的授業の発想と着眼点』清 ルミ (アルク)

## 日本語教授法演習Ⅱ

担当教員 尚 真貴子

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考 日本語教員資格科目

## 【授業のねらい】

日本語教授法演習Ⅰに引き続き、種々の日本語教授法と指導法の理論と実践について考察する。加えてカリキュラムの立て方とコース・デザインの方法についても観る。実際の授業の進め方については別にシラバスを作成し、クラスで配布する。

## 【授業の展開計画】

- |         |                      |
|---------|----------------------|
| 1-2週目   | 日本語の語彙とその指導          |
| 3-4週目   | 文法の指導・ドリルの種類         |
| 5-6週目   | 聴解の指導                |
| 7-8週目   | 話し方の指導               |
| 9-10週目  | 読解の指導                |
| 11-12週目 | 書き方の指導               |
| 13-14週目 | 日本語教育における評価法         |
| 15週目    | カリキュラムの立て方・日本語教師の心構え |

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

出席率＋発表＋レポート＋テスト＋授業態度

## 【テキスト】

- (1) 石田 敏子『日本語教授法』 大修館書店
- (2) 『みんなの日本語（初級Ⅰ本冊）』

## 【参考文献】

参考図書リストをクラスで配布する。

## Public Speaking

担当教員 ホール ミンキー

配当年次 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

The aim of this course is to introduce students to the basics of public speaking, with an emphasis on speaking extemporaneously. Students will receive training and instruction in delivery, speech preparation, audience analysis, outlining a speech, gesturing, using props and visual aids, researching a topic, and critiquing a speech.

## 【授業の展開計画】

Working in groups of six or seven, students will be required to give four speeches: a self-introduction speech, an informative speech, and a persuasive speech. In addition, students will be required to upgrade (using visual aids and other methods) one speech that they will then have to deliver as a final exam. One or two speeches may be taped.

週	授 業 の 内 容
1	Introduction to class and methods, overview of public speaking, self-introductions
2	Basics of the speechmaking process, delivering your speech
3	SELF-INTRODUCTION SPEECHES and discussion of speeches
4	Preparing your speech: choosing a topic, analyzing the audience, and gathering information
5	Preparing your speech: organizing your speech, writing effective introductions
6	INFORMATIVE SPEECHES
7	Discussion and evaluation of speeches
8	Capturing and maintaining audience attention
9	Organizing a persuasive speech
10	Persuading an audience
11	PERSUASIVE SPEECHES
12	Discussion and evaluation of speeches
13	Using props and visual aids
14	Using Power Point effectively
15	FINAL SPEECHES
16	

## 【履修上の注意事項】

Students should be prepared to spend most of each period speaking in English. I expect students to deliver all of their speeches extemporaneously, which means that speeches should be well-rehearsed. Students may use note cards during their speeches, but they should be able to maintain eye contact with the audience.

## 【評価方法】

Grades for speeches will be assigned based on student evaluations, submitted notes, and teacher observation. Grade percentages will be assigned as follows: self-introduction speech (10%), informative speech (25%), persuasive speech (25%), final exam (30%), and evaluation of other speeches (10%).

## 【テキスト】

No textbook is required; however, students should bring an electronic dictionary and B5 notebook to every class.

## 【参考文献】

Numerous handouts will be distributed during class.

## Pronunciation Workshop

担当教員 李 イニッド

配当年次 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

This course helps students understand English pronunciation and overcome the areas they find most challenging. Specifically, students will learn how to master individual sounds, word stress, rhythm, connected speech, reduction, phrasing, and intonation.

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	Consonants (1)
3	Consonants (2)
4	Consonants (3)
5	Consonants (4); Quiz I
6	Vowels (1)
7	Vowels (2)
8	Vowels (3)
9	Quiz II
10	Accent & Rhythm
11	Liaison
12	Reduction; Quiz III
13	Phrasing
14	Intonation
15	Quiz IV
16	

## 【履修上の注意事項】

No particular requirements.

## 【評価方法】

Attendance & class participation (50%), Quizzes (50%)

## 【テキスト】

## 【参考文献】

## Pronunciation Workshop

担当教員 ーグレイ クウェン ヒデオ

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】



## 翻訳研究

担当教員 ホール ミンキー

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4.0

### 【授業のねらい】

このクラスでは、本格的な翻訳を教えるにあたり、特に英文を日本語に翻訳することに重点をおいて行う。また、生徒に翻訳における専門的な知識と、翻訳家に必要とされる技術を学んでもらうことを何よりの目的とする。

### 【授業の展開計画】

自分が翻訳したい資料などを授業に持ってきてもらいたい。学説や、方法論、翻訳に対する信念は向かい合う様々な問題として討論される。

週	授 業 の 内 容
1	講義内容と方法の説明、翻訳紹介
2	翻訳の種類、依頼者のニーズ、翻訳家の仕事、簡潔な翻訳
3	課題1 レシピ
4	道具、辞書、ウェブサイト、本格構成、TMソフトウェア
5	課題2 運転免許証
6	課題3 ユーモアテキスト
7	課題4 広告テキスト
8	課題5 ビジネス通信
9	課題6 ビジネス通信
10	課題7 文学テキスト
11	課題8 文学テキスト
12	グループ活動 アメリカのテレビ番組を日本語に訳して、日本語の吹き替え版を作ります。
13	グループ活動
14	グループ活動
15	吹き替え版の録音 / 公開
16	

### 【履修上の注意事項】

この講義を受ける受講生には高い英語読解力を期待する。

翻訳の際に翻訳機を使わないこと。翻訳機にかけたものは、盗用とみなす。同様にクラスメートの翻訳を写さないこと。自分で翻訳したことが証明されなければならない。

### 【評価方法】

生徒の評価は、講義での発言や提出物が15%、宿題の課題が35%、最終のグループ発表が25%、最終ノート提出が25%である。受講者は少なくとも75%以上の出席と、欠席の際の補修は完璧に提出しなければならない。

### 【テキスト】

この講義ではテキストは必要ないが、受講生は電子辞書とB5のノートを毎回持ってくる。配布された資料や翻訳する際参考にした資料をコピーして持って来てもらうこともある。

### 【参考文献】

## 卒業論文 I

担当教員 新垣 實

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

## 【授業のねらい】

基礎演習I~IV・専門演習I~IVで学んだことを基にして卒業論文を各自書きます。英米言語文化学科で学んだことに関する諸分野（英米文学・言語学・文化・など）から各自テーマを選び、数ヶ月かけてサーチする。その成果を卒業論文として作成するとともに、クラスで発表し、卒業論文集としてまとめる。

## 【授業の展開計画】

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 キャリアガイダンス
- 第3週 図書館オリエンテーション
- 第4週 卒論とは・卒論のテーマ設定
- 第5週 卒論を書くには（1）
- 第6週 卒論を書くには（2）
- 第7週 卒論の形式・卒論テーマ発表
- 第8週 卒論資料検索について
- 第9週 卒論資料収集について
- 第10週 卒論資料集経過発表
- 第11週 資料収集
- 第12週 資料収集
- 第13週 卒論概略作成
- 第14週 卒論概略作成
- 第15週 卒論概略発表
- 第16週 まとめ

## 【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること

## 【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

## 【テキスト】

プリンと教材を準備する。

## 【参考文献】

参考文献は各自のテーマに沿って紹介する。

## 卒業論文 I

担当教員 松田 節子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

この演習と後期の卒業論文Ⅱでは、大学生活4年間の締め括りとして明快で論理的な論文を書くことを目的とする。テーマについては語学文化に関するものであれば特に限定せず、過去3年間の勉強を通して各自が一番興味を覚えたものを選んでよいこととする。前期は、まず、資料の収集方法、資料の読み方、論文の体裁、執筆方法など、論文作成の基本を再確認する。続いて、テーマ設定の理由や論文の内容構成などについて発表する。

### 【授業の展開計画】

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テキスト読み合わせ（テーマ設定・資料収集・資料の読み方などについて）
- 3回 テキスト読み合わせ（アウトラインのたて方、論文の体裁などについて）
- 4回 テキスト読み合わせ（執筆方法などについて）
- 5回 個人発表（テーマ発表および収集文献紹介）
- 6回 個人発表（テーマ発表および収集文献紹介）
- 7回 個人発表（主要先行研究論文要旨と現段階での課題について）
- 8回 個人発表（主要先行研究論文要旨と現段階での課題について）
- 9回 個人発表（主要先行研究論文要旨と現段階での課題について）
- 10回 個人発表（主要先行研究論文要旨と現段階での課題について）
- 11回 個人発表（論文概要について）
- 12回 個人発表（論文概要について）
- 13回 個人発表（論文概要について）
- 14回 個人発表（論文概要について）
- 15回 前期のまとめおよび夏期休暇中の作業日程の確認

### 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) ゼミは学生中心なので積極的に参加すること
- (3) 提出物は締め切りを厳守すること
- (4) 教室では携帯電話の電源を切ること

### 【評価方法】

出席率、ゼミへの取り組み方および卒業論文の内容を総合的に評価する。

### 【テキスト】

『卒論を書こう』 榎木伸明 三修社  
プリント教材

### 【参考文献】

各自のテーマに応じて適宜紹介する。

## 卒業論文 I

担当教員 追立 祐嗣

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

## 【授業のねらい】

アメリカ文学一般、及びアメリカの文化に関する論文を書くことを目指す。

## 【授業の展開計画】

前半は、論文の書き方についてのテキストを読み、論文のテーマ、本論の構成、注や参考文献の使い方など、論文執筆のための必須事項を学ぶ。

後半から夏期休暇中にかけては、各自でテーマの設定、アウトラインの組み立て、資料の収集などの作業を行う。

## 【履修上の注意事項】

特になし

## 【評価方法】

授業への積極的な参加、テーマ・アウトラインの進捗状況により評価する。

## 【テキスト】

『卒論を書こう』 榎木伸明、三修社

## 【参考文献】

『知的生産の技術』 梅棹忠夫、岩波新書、 『レポートの組み立て方』 木下是雄、ちくまライブラリー  
『知の技法』 小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会、 その他、適宜紹介する。

## 卒業論文 I

担当教員 西原 幹子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

各自の関心に応じてテーマを設定し、それについて考察を深め、最終的に論文としてまとめることを本講の目的とする。論文作成にとって土台となるのは、作品や文献を丁寧に読み込むという作業であり、十分な読解を通してはじめて問題意識も明確になると思われる。前期の授業では、各自のテーマを絞り込むまでの「読み」のプロセスに重点を置く。

### 【授業の展開計画】

4月～5月 各自の関心のある領域から文献をいくつか読み、レポートする。

6月 扱う作家や作品、テーマ領域を絞り込む。

7月 大まかなアウトラインをたて、実際に書き始める。

8月～9月 参考文献の収集とその整理

### 【履修上の注意事項】

イギリスの文学や文化をテーマに考えている学生が望ましい

### 【評価方法】

授業への貢献度、発表、論文内容を総合して評価する。

### 【テキスト】

『論文の書き方』澤田昭夫著、講談社

### 【参考文献】

『思考の整理学』外山滋比古著、筑摩書房

『論文の教室』戸田山和久著、NHKブックス

## 卒業論文 I

担当教員 野口 正樹

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

## 【授業のねらい】

卒業論文作成への道筋を順を追って解説します。Title (題目) 設定に始まり, Abstract (要旨), Introduction (緒言), Method (方法: 被験者, 手順), Results (結果), Discussion (考察), Conclusion (結論), References (参考文献), Appendixes (補遺) に及びます。英語に関する topic であれば原則 acceptable ですが, pedagogical implications (教育に対する示唆) の項目が重要になります。

## 【授業の展開計画】

4月 textbook 第1-2章 discussions  
5月 textboo 第3-5章 discussions  
6月 textboo 第6-8章 discussions  
7月 outline 及び reference list 提出  
(8-9月 個人夏季課題: 先行文献研究)

## 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は, 講義初日の orientation に必ず参加し, 内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は, 事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また, textbook 及び辞書, 筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

## 【評価方法】

- ① 授業出席度 (原則皆勤)
- ② 発表
- ③ 質疑応答
- ④ 課題
- ⑤ 受講姿勢
- ⑥ Outline

## 【テキスト】

講義内で連絡します。

## 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

## 卒業論文 I

担当教員 柴崎 礼士郎

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

学生生活の総仕上げとして、あるいは、社会人に向けての第一歩として、説得力のある論文を書くことを目的とする。テーマは特に定めず、言語・文化に関するものであれば特に制限を設けない。小さな関心事が実は大きな成果を生み出すかもしれない。論文とは本来こうしたものです。そのためにも、各自にとって最も興味深いテーマを選んで貰い、クラスでの中間報告などを通して焦点を絞っていけるようにしたい。尚、文章作成は社会人として必ず要求される資質であるため、クラス全員で就職課主催の講座にも可能な限り参加する予定である。

### 【授業の展開計画】

- 4月： 各自のテーマを紹介・説明
- 5月： 図書館でのデータ検索演習
- 6月： 資料収集・論文作成法演習
- 7月： 各自のテーマの確定・報告会

### 【履修上の注意事項】

報告時にはタイプされたハンドアウトを用意してもらおう。論文だけではなく、発表形式も同時に再確認してゆく。卒論は英語あるいは日本語で書いてもらおう。その他の言語で書きたい場合は要相談。

### 【評価方法】

- ①出席 ②発表 ③課題 ④授業態度

### 【テキスト】

TBA。現在選定中ですが、開講時に指示します。

### 【参考文献】

榎木 伸明 2006『卒論を書こうーテーマ探しからスタイルまで』東京：三修社；第二版。

## 卒業論文 I

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】



## 卒業論文Ⅱ

担当教員 新垣 實

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

基礎演習Ⅰ～Ⅳ・専門演習Ⅰ～Ⅳで学んだことを基にして卒業論文を各自書きます。英米言語文化学科で学んだことに関する諸分野（英米文学・言語学・文化・など）から各自テーマを選び、数ヶ月かけてサーチする。その成果を卒業論文として作成するとともに、クラスで発表し、卒業論文集としてまとめる。

### 【授業の展開計画】

- 1回 オリエンテーション
- 2回 卒論第1回中間発表
- 3回 卒論第1回中間発表
- 4回 卒論作成
- 5回 卒論作成
- 6回 卒論作成
- 7回 卒論第2回中間発表
- 8回 卒論第2回中間発表
- 9回 卒論作成
- 10回 卒論作成
- 11回 卒論作成
- 12回 卒論発表
- 13回 卒論発表
- 14回 卒論発表
- 15回 卒論発表
- 16回 まとめ

### 【履修上の注意事項】

- 1) 遅刻・無断欠席をしないこと
- 2) 積極的に授業に参加すること
- 3) 授業中に私語・居眠りをしないこと
- 4) 教室では携帯電話の電源を切ること

### 【評価方法】

出席率、授業態度、授業への貢献度、レポートの内容および課題発表の出来

### 【テキスト】

プリンと教材を準備する。

### 【参考文献】

参考文献は各自のテーマに沿って紹介する。

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 松田 節子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

## 【授業のねらい】

前期に引き続き、卒業論文をまとめあげていくことを目標とする。後期は、夏期休暇中におおよそ書き上げた各自の論文について中間発表をすることから始める。発表する時は、レジュメ、資料および参考文献リストを準備し、ゼミのメンバー全員に配布する。この段階でレジュメの体裁、参考文献リストの様式などについて再度チェックする。同時に、発表後の講評と討議を参考に加筆修正して論文をよりよい内容にまとめていく。

## 【授業の展開計画】

- 1回 オリエンテーション
- 2回 中間発表（講評および討議）
- 3回 中間発表（講評および討議）
- 4回 中間発表（講評および討議）
- 5回 中間発表（講評および討議）
- 6回 中間発表を受けての個人指導
- 7回 中間発表を受けての個人指導
- 8回 中間発表を受けての個人指導
- 9回 中間発表を受けての個人指導
- 10回 中間発表を受けての個人指導
- 11回 下書き原稿（完全原稿）提出
- 12回 下書き原稿返却、修正
- 13回 下書き原稿修正、提出
- 14回 論文最終発表会（学外ゼミ）
- 15回 卒業論文集作成

## 【履修上の注意事項】

- (1) 遅刻、無断欠席をしないこと
- (2) ゼミは学生中心なので積極的に参加すること
- (3) 提出物は締め切りを厳守すること
- (4) 教室では携帯電話の電源を切ること

## 【評価方法】

出席率、ゼミへの取り組み方および卒業論文の内容を総合的に評価する。

## 【テキスト】

『卒論を書こう』 榎木伸明 三修社  
プリント教材

## 【参考文献】

各自のテーマに応じて適宜紹介する。

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 追立 祐嗣

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

アメリカ文学一般、及びアメリカ文化に関する論文を書くことを目指す。

### 【授業の展開計画】

夏期休暇中までに、各自でテーマの設定、アウトラインの組み立て、資料の収集などの作業を行い、10月・11月に中間発表を行う。12月下旬に第一稿、1月中旬に第二稿を提出し、2月に「卒業論文集」の印刷・製本の作業を行う。

### 【履修上の注意事項】

特になし

### 【評価方法】

原則として、完成論文の提出者には「優」を与えるが、中間発表、授業への積極的な参加などに関して著しい問題があれば、その他の評価もあり得る。

### 【テキスト】

『卒論を書こう』 榎木伸明、三修社

### 【参考文献】

『知的生産の技術』 梅棹忠夫、岩波新書、 『レポートの組み立て方』 木下是雄、ちくまライブラリー  
『知の技法』 小林康雄・船曳建夫編、東京大学出版会 その他、適宜紹介する。

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 西原 幹子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

後期は実際の執筆作業を通して、論理構成の方法や論文作成上のルールについて学ぶ。

### 【授業の展開計画】

後期はじめに中間発表を行い、その後は個別指導が中心となる。

10月 各自の論文の中間報告

11月～12月 個別指導

12月半ば 完成論文の提出

1月 論文の手直しと再提出

### 【履修上の注意事項】

提出の締切りは厳守してもらいます。

### 【評価方法】

授業への貢献度、発表、論文内容を総合して評価する。

### 【テキスト】

『論文の書き方』澤田昭夫著、講談社

### 【参考文献】

『思考の整理学』外山滋比古著、筑摩書房

『論文の教室』戸田山和久著、NHKブックス

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 野口 正樹

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

前期の研究課題設定及び outline と資料収集を基に、卒論を完成させます。進捗状況を定期的に発表し、達成度に応じて個別指導を行います。また、卒論中間発表を行い、inter-class での情報交換や建設的な批評を仕上げに生かします。draft 提出1ヶ月前からは、日本語の文章表現も検討します。卒論提出後には発表会を行い、口頭発表技能を培うと共に、critique を今後の研究・教育に繋げます。

### 【授業の展開計画】

10月	卒論中間発表	(10月中または下旬予定)
11月	data collection 及び polishing up	
12月	文章表現推敲及び draft 提出	(12/21 2:40 PM)
1月	卒論最終原稿提出	(1/25 2:40 PM)
2月	卒論発表会	(2月初旬予定)

### 【履修上の注意事項】

- ① 受講予定者は、講義初日の orientation に必ず参加し、内容・方法を理解することが履修の前提です。
- ② 無断遅刻・欠席・退出は一切認められません。正当な理由がある場合は、事前に必ず mail 連絡下さい。
- ③ 課題は毎時期限までに完成させます。
- ④ 携帯電話の電源は切っておきましょう。また、textbook 及び辞書、筆記用具は必須です。
- ⑤ 講義内での私語及び居眠り・他者への迷惑行為等は問題外になります。

### 【評価方法】

- ① 授業出席度 (原則皆勤)
- ② 発表
- ③ 質疑応答
- ④ 課題
- ⑤ 受講姿勢
- ⑥ 卒論

### 【テキスト】

講義内で適宜配布します。

### 【参考文献】

講義内で別途配布または連絡します。

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 柴崎 礼士郎

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

中間報告を通じたディスカッション形式でクラスを進めたい。各自のテーマが出揃った段階で受講生同士の意見交換や数名によるミーティングも重ねて行く。少しでも質の高い論文になるように配慮したい。

### 【授業の展開計画】

- 10月： 夏期休暇中の成果を発表（第1稿提出予定）
- 11月： 報告会・論文再構成（第2稿提出予定）
- 12月： 報告会・論文再構成（第3稿提出予定）
- 1/2月： 微調整・最終稿提出 / 発表会（東村セミナーハウスを予定）
- 3月： 卒業論文集配布（卒業式の後に）

### 【履修上の注意事項】

【注】出席していても、論文が期限内に書きあがらなければ卒業できない点を忘れないで下さい。

### 【評価方法】

- ①出席 ②発表 ③課題 ④授業態度 ⑤締切り厳守

### 【テキスト】

TBA。現在選定中ですが、開講時に指示します。

### 【参考文献】

各自のテーマに沿ったものを指示・紹介・配布する。

## 卒業論文Ⅱ

担当教員 クレグ K ジェイコブソン

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

## 日本語教育実習Ⅱ

担当教員 尚 真貴子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考 日本語教員資格科目

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 2.0

### 【授業のねらい】

大学内の外国人科目等履修生のための日本語の初級と中級レベルのクラスで教育実習を行う。また短期日本語研修生のための授業を実際に担当する。実習の内容として、ニーズ調査方法の検討及び実施、プレイスメント・テストや習熟度テストの作成と実施、目標の設定とコースデザインの検討等がある。そして指導案作成の後、検討し、リハーサルを行い、実際に授業を担当する。さらに教材作成、評価とフィードバックも行う。

### 【授業の展開計画】

### 【履修上の注意事項】

「日本語表現法演習」「日本語現代文法」「日本語教材研究演習」「日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ」  
「日本語教育実習Ⅰ」を履修済みのこと

### 【評価方法】

総合的に評価する。実習の準備から授業そして教材作成等すべてが評価の対象となる。

### 【テキスト】

配布資料と参考文献を中心に講義を行う。

### 【参考文献】

日本語教育実習Ⅰで示した参考文献と以下を活用する。『わざ 光る授業への道案内』今村 和宏(アルク), 『心と心がふれ合う 日本語授業の創造』縫部 義憲(歴々社), 『日本語教育の実習 理論と実践』岡崎 敏雄他(アルク)